

2 交通拠点まちづくりに向けた連携施策の検討・推進

- ・ 基本構想に位置付けられた連携施策について、胡屋バスタの整備事業の検討にあたり、優先的に検討を必要とする連携施策について、検討を行った。
- ・ 胡屋中央地区広場機能やまちなか交流拠点のコンセプト(案)に向け、WGメンバーより意見を頂くことを目的に、デザイン部会の開催を実施した。

①デザイン検討部会の開催

②交流機能の検討

③まちなか交拠点の検討

④駐車場機能の検討

2-1 デザイン検討部会の開催

(1) 今年度の地域デザイン部会の展開方針（案）

- ・ 昨年度の地域デザイン部会では、沖縄市交通拠点整備基本構想に示した、胡屋・中央地区バスターミナルを中心とした回遊性の向上を図る具体的な取り組みを進めるための3つの展開方針を示した。
- ・ 今年度は、地域全体のまちづくりの取組を踏まえた交通結節点の必要機能を検討、地域の約束事としてのデザイン検討、具体の空間機能配置の検討、本格整備や機能導入に向けた実証実験を実施した。

展開方針1: 地域の居場所となり、地域の交わりを促し、地域を繋ぐ展開

- 中心市街地エリアの拠点として、地域の居場所となる場、エリア内外の交流促進、地域を繋ぐ機能や取組の検討
- 回遊性を高めるとともに、各施策の相乗効果を高め、地域を再生成する機能や取組の検討 等

今年度の取組み

- まちづくり基本計画(素案)、まちづくりから考える必要機能

展開方針2: 地域を体現する空間創出に向けた展開

- 地域の生活・歴史・文化に加えて、地形的な特徴を踏まえつつ、街の空間スケールにあった空間創出に向けたデザインコードの検討
- 胡屋・中央地区バスターミナルを中心としたコザゲート通り、くすの木通り、中央パークアベニュー、一番街商店街、パルミラ通り等の特色を活かした空間デザインの検討 等

今年度の取組み

- 「地域の約束事」としてのデザインコードを踏まえたデザイン検討
- 「具体の空間機能配置」としてのバスタ周辺エリアのパブリックスペースの検討

展開方針3: 時間軸をとらえた実効性のある展開

- インフラ整備や施設改修などの契機を活かした展開の検討
- 交通拠点が整備されるまでの取組みの検討（高齢化対策、空地の利活用等）
- 地域全体をとらえ、各種取組を繋ぎ実践する仕組みの構築に向けた検討
- 地域の主体性を高める産官学連携の取組の検討 等

今年度の取組み

- 本格整備や機能導入に向けて「試す」取組としての各種実証実験

(2) 開催日時及び概要

- ・ 地域デザイン部会の開催日時及び概要を以下に示す

	日時	概要
第2回 地域 デザイン部会	令和7年10月14日 13時30分 ～15時30分 【場所】 沖縄こどもの国 動物センター ZOOスクール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の展開方針（案） ・ まちづくり基本計画 （まちづくりから考える必要機能）（素案） ・ デザインコードを踏まえたデザイン検討の考え方について ・ バスタ周辺エリアのパブリックスペースの方向性（素案）について ・ 各種実験計画（案）について（広場、交流拠点等）
第3回 地域 デザイン部会	令和8年2月18日 10時～12時 【場所】 沖縄こどもの国 チルドレンセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度の取組みについて ・ デザイン検討について ・ 空地及びまちなか交流拠点の活用について

(3) 参加者

項目	氏名	備考
有識者	羽藤 英二 東京大学教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国のバスタ事例、デザインセンター等に係られている知見を踏まえ、バスタのデザイン、あり方について意見をいただく。 ・ 学生も随行として参加。
	石垣 彩音 氏（ファシリテーター）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄の交通まちづくりの観点から、バスタのデザイン、在り方について意見をいただく。
	照屋 幹夫 氏（NPOコザまち社中）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄の交通まちづくりの観点から、バスタのデザイン、在り方について意見をいただく。
地域	神山 茂 氏（パークアベニュー通り）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄のクリエイター視点でのバスタのデザイン、あり方について意見をいただく。
	恩河 尚 氏（ヒストリート館長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胡屋・中央地区の歴史・文化を踏まえ、意見をいただく。
	松田 健治 氏（センター自治会）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄市の地域に即した視点でのバスタのデザイン、有り方について意見をいただく。
	島袋 恭治 氏（胡屋自治会）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄市の地域に即した視点でのバスタのデザイン、有り方について意見をいただく。
	普久原 真吾 氏（中の町自治会）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄市の地域に即した視点でのバスタのデザイン、有り方について意見をいただく。
事務局	沖縄市 建設部 都市交通担当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頂いた意見を事務局案としてとりまとめ。



第2回地域デザイン部会の様子



第3回地域デザイン部会の様子

(4) 議事要旨

・第2回 地域デザイン部会

日時：令和7年10月14日（火）13：30～15：30

場所：沖縄こどもの国 動物センターZOO スクール

1. 開会

2. 議題 1) 設置要綱について

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄市	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 設置要綱の別表の変更を行った。 ▪ 新たな委員の任命である。この設置要綱について、ご意見はあるか。 	<p>(一同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 異議なし。

3. 報告 1) 今年度の展開方針（案）について

- 2) まちづくり基本計画（まちづくりから考える必要機能）（素案）
- 3) デザインコードを踏まえたデザイン検討の考え方について
- 4) バスタ周辺エリアのパブリックスペースの方向性（素案）について
- 5) 各種実験計画（案）について（広場、交流拠点等）

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
(株)さびら 企画開発部 石垣 委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ デザインコードのキーワードやイメージは、地元住民から、写真を提供してもらえると良い。 ▪ パブリックスペースを広場的な空間の検討から始めていく方向性そのものには納得できる。 ▪ 広場以外のパブリックスペース（道路を含む）を基点とし、拠点間の移動と空間の扱いを考慮することで、包括的な空間となる。今後の実証実験の結果も反映させると良いと考える。 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
㈱さびら 企画開発部 石垣 委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 工事の間の空白期間で生まれる無機質な空間は、地元にとって長期間続くため活用が課題と考える。デザインコードの提案について、空白期間の暫定的な土地利用か、残地の活用なのか。また、残地活用について、他の提案や今時点で利用予定はあるのか。 ▪ 残地がどこになるのか特定がまず必要と考える。また、色々な人が色々な使い方ができるという中で、使い方の例を示す事例として一つあるのは面白いと考える。 	(沖縄市) <ul style="list-style-type: none"> ▪ 残地活用について、今回は実験で何が出来るかという視点が発端であるため、継続的に実験を行うか等は、検討していく。 ▪ 今後は残地が増えていくが、場所の見通しが明確ではないため、今回の実験内容を実行してみようと考えている。 ▪ やり方について、長期的にやるのか等、色々アドバイスをいただきたい。
東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ パブリックスペースというよりも、ネットワークとして捉え、動いていく中で、広場、お店、ベンチがあり、バスに乗って外に行けて戻ってこれるような、一連のネットワークを目指すべきコンセプトを考えるべき。 ▪ 資料5、9ページ、パブリックスペースの配置イメージにネットワークとしての整備が記載されている。活動景観軸、生活軸、緑の骨格軸の他に、空間的な工夫も必要である。 ▪ 動物園（沖縄こどもの国）、アリーナとの接続と戻ってくる部分をネットワークとして整備していくということを踏まえると、これまでスタティッ 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
<p>東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長</p>	<p>クな場所の議論や反映はできているが、移動風景を作る観点でもう少し書きようがあるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ ネットワークを作っていくにあたって、軸だけにとどめず、いろんなスペースを活かすための工夫を充実させることで、様々な動きに繋がってくる、それをバスタのコンセプトにするという指摘はもっともと考えるため、事務局は意見を踏まえて修正いただきたい。 	
<p>まちづく NPO コザまち 社中 照屋 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 本取組を考えるにあたり、コザの国際性が計画にどのように組み込まれるのか。例えば、災害時のまちの対応においても、住民だけでなく、観光客や外国人等へPRできる、ソフト的な対応も必要と感じている。 ▪ 沖縄市には景勝地がないため、カルチャーツーリズムを通じて観光客を誘致するための中部の拠点や起点とすることも一つの目的としてあるのではないかと考えており、計画にもっと入れ込むべきではないかと考える。 ▪ 沖縄市には景勝地がないため、カルチャーツーリズムを通じて観光客を誘致するための中部の拠点や起点とすることも一つの目的としてあるのではないかと考えており、計画にもっと入れ込むべきではないかと考える。 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
まちづく NPO コザまち 社中 照屋 委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 食育について、色々な国の食事ができることも資源にし、良く利用してもらえる環境づくりができると考えるため、計画の中に入れ込んでいく必要があると感じる。 	
東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 外国人の対応について、実体験として、国際通りのバス乗降で困っている外国人を見たことがある。沖縄市で外国人がスムーズにバスに乗降できるようになり、全体に広がっていけばよいというのは納得した。 ▪ 東京オリンピックでは、ピクトグラムでわかりやすい表現を検討している。デザイン的な分かりやすさ等での外国人対応について、沖縄市だからできたといえるよう、みんなと議論していきたい。 ▪ バリアフリー等は前提としてあると思うが、記載がないと、子育て世代や障害者からは残念に感じる部分があるため、キーワードとして入れ込む必要があるというのがご指摘である。 ▪ 沖縄市でバスタプロジェクトをすることの意味として、中部の独特の文化圏を接続するハブにするというのは、これまでのデザイン部会の議論であまり出てこなかったため、事務局で検討いただきたい。 ▪ ハブやカルチャーツーリズム拠点等、様々なものが集まる場所であり、スタディーツア 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長	<p>一も出てくるという目線は委員の指摘通りである。一方で、そうしたものと、地元との暮らしとの両立の視点も重要である。</p>	
中の町自治会 会長 普久原 委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 説明いただいた計画等について、自治会は専門的な人間がいない。地域の声が重要で求められるのは理解できるが、資料が多いため目を通すことが出来ない。今後、様々な部会があると思うが、その際はわかりやすい資料となるよう配慮して頂きたい。 ▪ 周知について、言われたら気付く場所に看板等があるものの、もっとやり方があると感じている。ここが工夫できれば、地域からも沢山の意見が出やすくなるのではないか。 ▪ 計画の内容について意見は控えるが、意見交換が出来る場や、中の町公民館で地域の人から意見が活発に出るような雰囲気づくりが出来ればアイデアがたくさん出てくるのではないか。 	
東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 会議内容をまとめた A4 裏表程度の瓦版があると自治会もあったほうが良いと考える。また、どんな意見を聞きたいのかを記載することで、地域の方へ、一緒にやっていきたいというメッセージを伝えることも可能である。 ▪ 次回会議前に作成し、各自治会へ配布することも検討して頂きたい。 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
胡屋自治会 会長 島袋 委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ウォーカブルに繋がる話として、自治会施設での敬老会開催を約 400 名に案内したところ、約 50 名程度が参加した。一方、市役所前広場で開催した秋祭りには約 10 名しか集まらず、200～300m 離れているだけで足を運ばないことが分かった。 ▪ また、日暮れ前に帰宅される高齢者からは、夜道が怖いから早く帰るといった意見も聞いている。 ▪ 健康志向の高い人は、市街地を離れてウォーキングをされている。沖縄こどもの国から NBC (ブライダルセンター) のルートや、市役所からサンエー (R330)、郵便局通りを通ってのルートが定番コースである。 ▪ 実際に生活をしている方々も大切にし、地域の歩道幅やベンチを設置するなどを行うことが、ウォーカブルに繋がるのではないかと。 ▪ ウォーカブルのルートについて、四つ葉でなくハート型がよいのではないかと色々考えている。バスタについては、今の生活が便利になり、若い人も活かせるようなイメージのため、非常に期待している。部会に参加した意義を感じている。 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
<p>東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 集合場所をまち側に設けると集まりが悪くなることや、夜道が怖いという部分については、道路整備をやっていく必要がある。 ▪ 愛媛県松山市では、ほこ道制度を活用して歩きやすいウォークアブルな道路整備を推進している。バスタを中心とした、周辺ネットワークの整備も併せて行うことで、バスタ整備の効果を2倍、3倍にしていくことも議論されている。 ▪ 石垣委員にコンプリートストリートについてご意見いただきたい。 	<p>(石垣委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ コンプリートストリートは、歩行者だけでなく車やシニアカーなどの移動の仕方に対応した道路デザインは考えていけない。 ▪ また、バスターミナルや主要な拠点がどうつながるのかを含め、ネットワーク的な構想は必要であると考えている。
<p>センター 自治会 会長 松田 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 現在、パークアベニューでは8月より工事が始まり、荒涼とした雰囲気になっている。残地に関する具体的な計画がなく残念である。今後増える残地について、地域住民やクリエイターを巻き込んだ取り組みを検討していきたい。 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
<p>センター 自治会 会長 松田 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 防災組織を 4 月に結成した。センター自治会に所属する高齢者は独居老人も多い。バスターミナルだけでなく、住民や経営者の防災意識の向上に向けて取り組んでいきたい。 ▪ 防災訓練について、防災講座を 3 回に分けて実施している。また、センター街公園の祭りでは消火器体験と炊き出しをおこなった。さらに、コザ小学校までの避難経路を实际歩き、危険な場所を記載したハザードマップを作成している。 	
<p>東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 残地発生については、考えていかなければならないという委員指摘であった。 ▪ バスタが出来ると拠点として集まりやすくなり、安全になると想定される。最近では車避難、送迎避難の考えが出てきており、バスで避難所まで運ぶ考えも出てきているため、バスタと連携した避難訓練もセンター自治会と連携した社会実験が考えられる。 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
(株)ファンフ アーレ・ジャ パン 取締役 神山 委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ パークアベニューの工事が始まり、これまで議論してきたことが可視化されつつある。まち側の意見も多いが、計画そのものに反対しているのではなく、まちをデザインする側に入れたいことへの不満が根本の要因であり、それは通り会等の責任であると感じている。 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
(株)ファンフ アーレ・ジャ パン 取締役 神山 委員	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 残地問題について、工事開始後、空間が広がっていいという意見と、緑がなくなって悲しいという意見がそれぞれに一部ある。 ▪ 残地の活用について、実際の活用モデルケースを提示していきたい。それにより、まち側の関係者（店舗、テナント等）と議論を進めたい。それに行政側も参加してもらい、みんなで取り組んでいきたいと考えている。そうしたことが見える化されることで説得力が出てくる。 ▪ 国道側の残地活用について、県外のクリエイティブな経営者意見も取り入れることで、最低限のコストでも実現できると考える。まち側の一部関係者は行政依存型が拭えないため、役割を明確にしてまちづくり側の責任を果たすことを求めてもよいと考えている。 ▪ 教育的なアートではなく、グラフィティアートであれば落書きされることがない。 	
東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 残地について、住民がわからないまま進めるのではなく、目的が分かるよう見える化するプログラムや行為を計画に入れ込むべきではないかという委員からの指摘であった。 	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 今後、社会実験もあるが、堅苦しくせず、地元を巻き込み、市民も関わるオープンな形で実施するプログラムを考えなくてはいけないという指摘であった。 ▪ 行政側で考えた取組を押し付けると反対したくなるため、話を聞きながら、オープンに考えて頂きたい。 	

(総括)

発言者	主な意見
東京大学 大学院 工学研究科 羽藤 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ▪ まちづくり基本計画については、振り返るための資料としてよくまとめられており、本日の成果の一つである。 ▪ デザイン検討について、各委員の意見を取り込んだものが挙げられている。今後は瓦版にして自治会長協力の下、公民館に設置する等、周知して頂きたい。 ▪ パブリックスペースについて委員の実感と合っているところは関心するが、ネットワークとしての見せ方については、本日の意見を踏まえて検討いただきたい。 ▪ 各種実験については、残地活用のインタラクティブなプログラムを行うことや、公民館での瓦版配布も一つの社会実験であるため、考えていくべきである。 ▪ 残地活用について、県外の経営者とのつながり、個店で頑張る若い人たちを結び付けていくことで力を感じ、そうした人々が入ってくことで面白い形になり、コザらしさが出てくると考えるため、連携しながら進めてほしい。 ▪ 地元の方が不安にならないよう、色々な意見を踏まえて進めてほしい。中部の拠点、防災、ネットワーク等、キーワードを取り込んでいただきたい。

第3回 地域デザイン部会

日時：令和8年2月18日（水）10：00～12：00

場所：沖縄こどもの国 チルドレンセンター地下会議室

1. 開会

2. 報告 1) 令和7年度の取組みについて

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
胡屋自治会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 社会実験は、網羅的かつ相対的に評価にし、地域の必要性や対外的なサービスを他の施策と組み合わせて実施すべきと考える。 ▪ 胡屋の「コミュニティ広場」は老人クラブが管理（掃除・トイレ管理・草刈りなど）しているが負担がある。維持管理は民間に委託や、大手企業の活用を考えてもよいのではないか。まち全体を一体的にデザインし街全体の環境を向上させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ （基本計画：P61）
東京大学 大学院 工学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 管理は極めて重要であり、広場や施設の完成後、管理費の負担は大きな課題となる。管理費は、南部国道事務所の予算、利便施設の収益、担い手と収益の課題を組み立てていく必要がある。役割分担を意識しつつ、「地域全体のため」という観点から社会実証実験を通じて議論を深めていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ （基本計画：P61）
センター自治会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 老朽化した建物が多く、地震発生時の安全に強い不安がある。避難場所であるコザ小学校は、センター自治会の避難区域の端に位置するため、バスタ内に新たな避難場所の検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ （基本計画：P58・61）

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
センター 自治会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ すでに空き地や残地が発生しており、活用策について地域の若い世代も交えて検討してほしい。 	
東京大学 大学院 工学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域の防災拠点とバスタの関係、避難経路の問題、工事期間中の残地活用など、防災避難訓練の実施など、地域の方々の関与を高めていくきっかけづくりが大切ではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 非常に重要なため、バスタ計画にも項目を加筆して頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ (基本計画：P58・61・67)
まちづく NPO コザまち 社中	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 施設の老朽化とオーナーの高齢化が進んでおり、バスタがきた時に若者が集まっていることが重要。 ▪ 公共空地を活用した防災避難場所として、例えばミュージックタウンの隣接地で、ゲート通り沿いに位置した付近を公園化し、道路との段差を活かした駐車場を整備することを提案する。これにより、公共空地でイベントの開催が可能となる。ゲート通りは歩道を拡張して植栽を増やし、クスノキ通りとの一体感を高めることができる。さらに、緑豊かな公園にキッチンカーで食事を提供することで、バス利用者も気軽に立ち寄れる空間となり、滞在時間の増加につながると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ (基本計画：P51・53・58)

3. 議題 1) デザイン検討について

- 2) 空地及びまちなか交流拠点の活用について

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
(株)ファンファアーレ・ジャパン	<ul style="list-style-type: none"> 国道 330 号付近の空き地は、見た目の整理（インフラ整備）が必要と思う。アートの活用や駐車場・駐輪場の設置により、地権者に収益を生む基盤を整えてはどうか。 空き地を活用する全体の順番として、空き地にアート展示や企業ディスプレイを導入し、その後に、ライブやキッチンカーを活用した催し物をおこなうなど。 空き地と接する建物の住民のプライバシー保護としながら空き地活用を進めていく必要があるのではないかと思った。 イメージパースは、緑を増やしてほしいが、高層建物がなく空が広く見えるため好感がもてる。 	<ul style="list-style-type: none"> （基本計画：P61） （基本計画：P61） （基本計画：P61）
センター自治会	<ul style="list-style-type: none"> パークアベニューの相互通行化により発生した伐採植栽や廃材の活用として空き地に設置してはどうか。廃材活用したアートや工芸品など、空き地でワークショップを実施してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> （基本計画：P52）
胡屋自治会	<ul style="list-style-type: none"> パース図のデッキは、単なる横断歩道ではなく、有効活用できるデッキスペースが必要と思う。 残地の活用は主に若者向けの内容だが、高齢者の居場所も必要。自治会や公民館のように、残地活用の手続きを簡素 	<ul style="list-style-type: none"> （基本計画：P65） （基本計画：P61）

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
胡屋自治会	<p>化してほしい。また、空き地の一部を活用し社会福祉協議会や老人福祉センターのような空間を設け、市民の居場所として充実させてはどうか。</p>	
東京大学 大学院 工学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 国道側から見たデッキは非常に映えるため、沖縄市のシンボルとなり得る。 ▪ 新たな公共空間が利用者の選択肢の一つとなるために、商店街中心の視点だけでなく住民の視点を取り込み、バスタの左岸・右岸に空き地があるので、これを考慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ (基本計画：P65) ▪ (基本計画：P66)
まちづく NPO コザまち 社中	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 空き地活用のモデル事業を実証したいと考えているが、入居者の移転先を見つけてからと思っている。 ▪ 大阪駅のようにデッキ上でインディーズアーティストが音楽活動を行うなど、コザの特色を活かしたまちの魅力を発信できるようにしてはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ (基本計画：P61) ▪ (基本計画：P34・61)
(株)さびら 企画開発部	<ul style="list-style-type: none"> ▪ パースでのデッキの高さは建物の2階の上に接続しているが、実際はどうなのか。 ▪ デッキレベルに商店街の建物がなく、繋がりがなくもったいないと感じる。商店街の屋上利用もありえるのでは。 ▪ デッキの幅を広げ、大階段で下部に接続することで防災機能を強化できる。階段を観客席として活用すれば、広場全体に一体感が生まれるのでは 	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 道路の建築限界があるため3階のフロアレベル程度となり、商店街アーケード上の高さとなる。 ▪ (基本計画：P65・66) ▪ (基本計画：P65～67)

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
㈱さびら 企画開発部	<p>ないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 広場と空き地はまとめて管理する方が効率的である。アーバンデザインセンターのような事例を活用し、そこに管理や企画権限を与え、その使い方は国・市・地域・地権者と協議する。また、指定管理制度にすれば、国や市への報告機能も集約されるため運用しやすくなるのではないか。 ▪ 緑と高齢者の居場所を作ることに関心でき、銀行前の木と椅子のようなシンプルなものが空き地や広場に設置されるだけで、十分な居場所になると考える。 ▪ 公的な機能（例：社協など）も重要だと考える。 ▪ 経済状況の異なる人々がいるため、空地は過度に美しくしすぎると生活しにくくなる可能性もあり、現在のデザインコードを大切にしながら進めていただきたい。 	(事務局) <ul style="list-style-type: none"> ▪ (基本計画：P48・61) ▪ (基本計画：P66)
東京大学 大学院 工学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 事業化へ進めるためには、早めに事業地の計画を決め、バス事業者や商店街などへ協議の必要がある。 	

2-2 交流機能の検討

2-2-1 広場のコンセプトや機能の検討（広場空間の調査含む）

(1) 目的等

(a) 背景

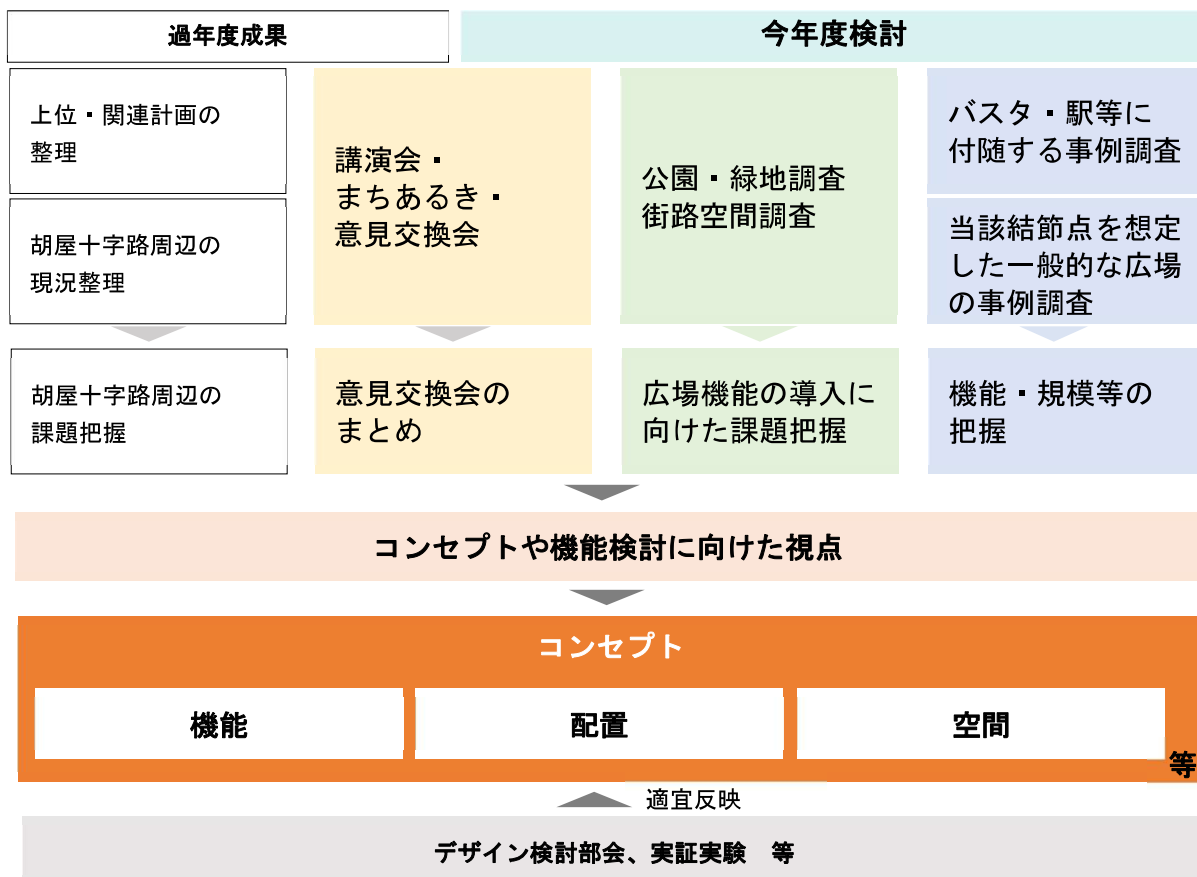
- ・ 過年度までの検討において交通拠点機能として「交流機能」、「まちなか交流機能」「駐車場機能」の必要性が確認されており、「交流機能」においては広場空間としての機能の検討が求められている。
- ・ 広場空間では、単純な公園機能だけではなく、交通結節点や周辺の環境に応じた適切な空間創出が求められている。

(b) 目的等

- ・ 交通結節点に将来的に整備を行うことが想定される広場空間において、過年度成果や今年度実施する広場空間の調査、広場事例の調査等の成果を活用しながら、必要なコンセプトや機能の検討を目的とする。

(c) 検討項目・検討のフロー

- ・ 検討にあたっての項目とフローを以下に示す。



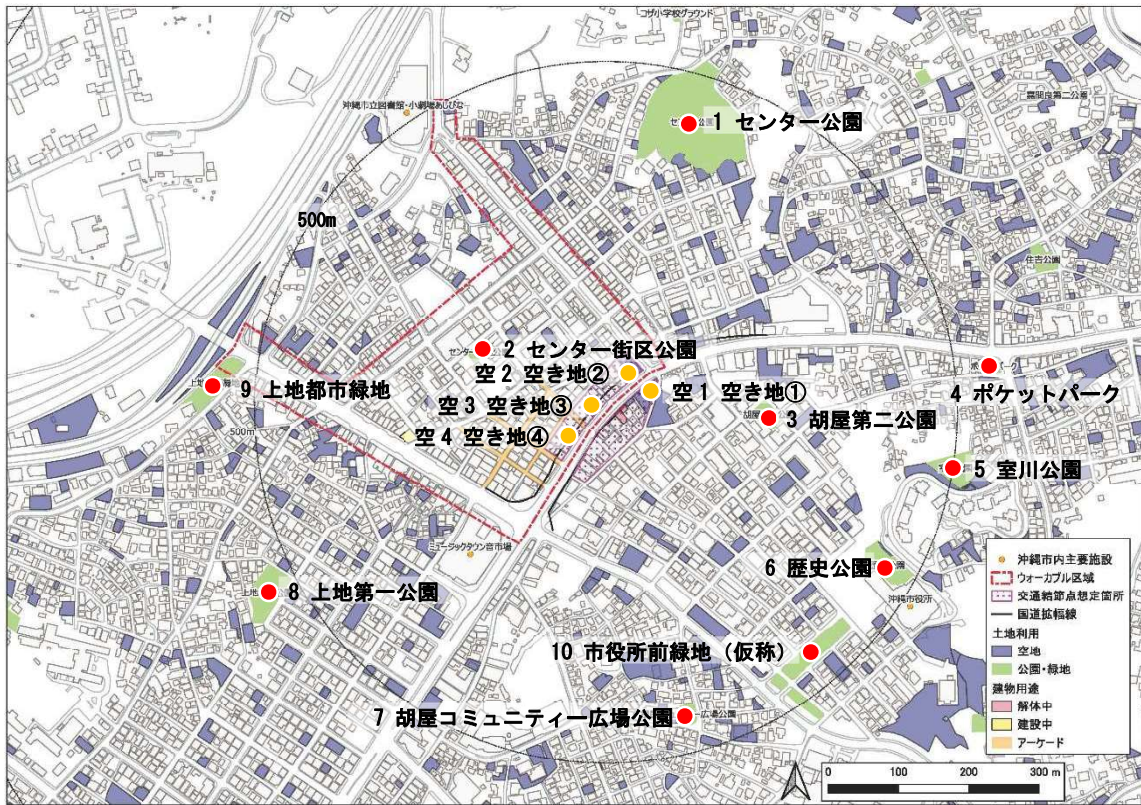
(2) 広場空間の調査

(a) 調査概要

■調査の基本的な考え方

- ・ 交通結節点（約 1.1ha）と同程度の規模の公園・緑地を調査することで、必要な機能等の検討に活かす。
- ・ 交通結節点から概ね 500m の範囲の公園・緑地の調査を行うことで、日常や災害時の徒歩等でのアクセスを想定した検討に活かす。
- ・ 既存の公園・緑地だけでなく、交通結節点の空地の調査を行うことで、実証実験等に活用可能な空地等の把握に活かす。
- ・ その他、本業務の交流機能（広場空間）想定箇所として位置付けられている公園・緑地等（八重島公園・越来城水辺公園）においては、上位関連計画の位置づけを整理することで、必要な機能等の検討に活かす。
- ・ 公園・緑地、及び交通結節点の空地調査結果はカルテとして整理する。なお、空地のカルテは、実証実験等で活用可能な位置や面積・現況を把握するものとして活用する。

■ 調査箇所位置図（拡大図）



■調査項目一覧

公園・緑地及び空地の調査項目（カルテ記載項目）を以下に示す。

○公園・緑地

番号		整備時期	
位置図		面積	
拡大図		用途	
現況写真		所有	
所在地		管理	
立地特性	位置	中心エリア※ or 周縁部 ※中心商業業務地区（都市計画マスタープラン）を 中心エリアとして設定	
	接続状況	複数交差 or 一本道	
空間特性	敷地境界部の囲み度	閉 or 開 （境界部の概ね 50%以上がフェンスや建物の壁面囲わ れている、または敷地境界部の地形等の高低差が大き い場合には「閉」、境界部のおおむね 50%以上が隣接 敷地との連続性が担保されている場合には「開」）	
	周辺建物のアクティブ度 （店舗数等）	高 or 低 （対象敷地から見える範囲や徒歩でアクセスしや すい場所に多くの店舗等があるか）	
機能	施設・設備	基盤機能	広場（芝、土、舗装） 照明、電源、トイレ 水飲み場・手洗い場 フェンス・ゲート ユニバーサルデザイン （点字ブロック、スロー プ、音声案内、多目的ト イレ）
		環境保全機能	植栽、花壇、池、ゴミ箱 その他
		滞留機能	ベンチ、東屋、パーゴラ テーブル、その他
		にぎわい機能	遊具、噴水・水遊び場 イベントスペース その他
		防災・インフラ機能	防火水槽、消火栓 防災倉庫、ソーラー電源 マンホールトイレ かまどベンチ、その他
		サービス補助機能	掲示板・案内板 自動販売機、駐車場 自転車置き場、シェアモ ビリティ、その他
利用状況	通常時、災害時、問題点、ポテンシャル		

No	公園・緑地名	位置づけ	通常時	災害時	利用状況	問題点	ポテンシャル
1	セントーパーク	緑：近隣公園は、有する運動、休憩・集い、環境保全の機能に加え、地域のシンボル・ランドマークとして、住民の快適な利活用の場となるよう、整備に努める。(沖繩市都市マスタープラン) 防災：避難場所に指定(洪水、高潮、津波、地震)	敷地内の高低差が大きく、お墓が点在。公園内に複数ベンチや広場が点在し、散策路となる通路や階段が広がっている。	避難場所に指定されているが、一時避難場所としての利用には感覚が不十分。 (理由については、問題点の項目を参照)	樹木の根上り等により舗装が隆起し、歩行に支障をきたしている箇所が存在。 トイレに水栓があるが取手がなく使えない状態。 植栽管理が行き届いておらず、開けた空間は一時的待機場所としての利用には不向きな状態。	植栽が多く豊かで大きな樹木が植えられているため、日陰が多く夏場でも涼しい空間。 周辺地域より高い場所に立地し、展望台も設置されており、眺望がよい箇所が存在。	
2	センター街公園	緑：街区公園は、身近なオープンスペースであり、維持管理を推進 (沖繩市都市マスタープラン) 防災：一	目立ったゴミの放置や設備の老朽化等はなく、維持管理が一定程度行われている。	防火水槽が設置されているため、近隣地域の火災発生時に利用可能。 水飲み場・手洗い場、トイレが設置されているため、災害時の生活用水の確保や避難者の生活支援等に繋がる可能性あり。	半面のバスケットコートがあるものの、バスケットゴールが撤去されているため、小規模な舗装空間は利用方法が制限され、利用者が少ないと思料。	道路との高低差がなく、園内は平坦で利活用しやすい形状。 低未利用地が隣接しているため、将来的に連結して一体的に活用する余地がある。	
3	胡屋第二公園	緑：街区公園は、身近なオープンスペースであり、維持管理を推進 (沖繩市都市マスタープラン) 防災：一	日影が多く、休憩などの一時滞留空間としての利用が想定される。 遊具が設置されているが、設備の老朽化や視認性の低さが見受けられる。	水飲み場・手洗い場、トイレが設置されているため、災害時の生活用水の確保や避難者の生活支援等に繋がる可能性あり。ただし、トイレは衛生面の改善が必要。	設備(遊具やトイレ等)の老朽化、特に隣接建築物の老朽化が著しく、また路上駐車が多い。樹木や高さのある建物に囲われており、視認性が悪いため、こどもの遊び場としての安全性や利便性には課題がある。台道には路上駐車が多い。園内には比較的平坦だが、出入口に段差がありユニバーサルデザインとなっていない。	樹木や近隣建築物の影響により日影が多く夏場でも涼しい空間。 同じ街区に立地するホテル(空き家)の建物更新時に一体利用の可能性あり。	
4	ボケットパーク	緑：一 防災：一	1本の高さのある樹木による日影とベンチ、水飲み場があり、休憩等の滞在空間としての利用が想定される。成長しすぎている植栽やポイ捨てが見受けられる。	水飲み場・手洗い場が設置されているため、災害時の生活用水の確保や避難者の生活支援等に繋がる可能性あり。また、国道330号に接しているため、災害時に輸送してきた物資の置き場などに活用できる可能性あり。	成長しすぎている植栽やポイ捨てがあり管理が不十分。 草が伸びており利用できる空間が限定的。 国道330号沿いで車の騒音があり落ち着く空間としては不向き。	国道330号沿いで立地が良くアクセス性がよい。 アクセシビリティが高い立地におけるオープンスペースとして貴重。 隣接建築物が広場に向いており一体利用の可能性あり。	
5	室川公園	緑：街区公園は、身近なオープンスペースであり、維持管理を推進 (沖繩市都市マスタープラン) 防災：一	大きな東屋と机やイス、遊具や広場、バスケットコート、自動販売機等複数の機能がそろっており、近接する市営住宅の住民の憩いの場。園内にはゴミ箱が設置されており、一定程度の維持管理が行われている。	水飲み場・手洗い場、トイレ、貯水タンク等が設置されているため、災害時の生活用水の確保や避難者の生活支援等に繋がる可能性あり。	老朽化等により遊具の一部や自転車置き場が使用禁止となり、突発的に生じる修繕費等にあてられる予備費の確保等について課題が見受けられる。	多彩な機能・空間があり、日常からイベントまで多様なアクティビティが活用可能な地域活動の場としての利用の可能性あり。	
6	歴史公園	緑：一 防災：一	指定文化財である室川貝塚あり。市役所職員や来訪者などの憩いの場。	水飲み場・手洗い場が設置されているため、災害時の生活用水の確保や避難者の生活支援等に繋がる可能性あり。 市庁舎に接しているため、災害時の活用が見込まれる。	地形に高低差が大きくなり、沖繩市庁舎の裏に隠れておりアクセシビリティが悪いため活用が難しい。	高台に立地しており、眺めが良い。緑が多く、風通しが良い。	
7	胡屋コミュニティ広場公園	緑：街区公園は、身近なオープンスペースであり、維持管理を推進 (沖繩市都市マスタープラン) 防災：一	自治会のシンボルでもあるガジュマルや杉井泉など地域遺産保全に配慮されている。	消火栓が設置されているため、近隣地域の火災発生時に利用可能。 手洗い場、トイレ等が設置されているため、避難者の生活支援等に繋がる可能性あり。	ベンチや日陰が少なく、小規模遊具が2つのみと魅力に欠ける空間。 老朽化や朽れが著しく使いづらいトイレ。 周辺道路の幅員は狭いが、大通りに近接していないため、路上駐車が多い。	広場がフラットで可変性のある広場であるためイベント等で活用しやすい。	
8	土地第一公園	緑：街区公園は、身近なオープンスペースであり、維持管理を推進 (沖繩市都市マスタープラン) 防災：一	管理が行き届いており、遊具や地形の起伏などがあるため子供の遊び場としてよい環境。	水飲み場・手洗い場、トイレ等が設置されているため、災害時の生活用水の確保や避難者の生活支援等に繋がる可能性あり。	植栽が剪定されすぎており、日影が少ない。ベンチはあるものの日陰にかかる場所に配置されていない。路上駐車が多い。	落ち着いた住宅街の中にあり、安全な空間。 園内には一定程度平坦でユニバーサルな空間、起伏がありアクティビティを誘発する空間、電源があり、イベントを含めた多様なアクティビティが可能。	
9	土地都市緑地	緑：都市緑地は、環境の保全、都市景観の向上、遊歩路、遊歩地など、多くの役割を担っており、その果たすべき役割を明確に把握しつつ、保全に努める。(沖繩市都市マスタープラン)	植栽や日陰、ベンチが多くある。トイレは一部使用禁止となっている。	水飲み場・手洗い場、トイレ、貯水タンク等が設置されているため、災害時の生活用水の確保や避難者の生活支援等に繋がる可能性あり。	開けた空間であるものの、周辺道路の交通量が多く孤立している。	園内は緩やかな傾斜があり開放感がある。 植栽が多いため日陰があり、快適な滞留空間となっている。	
10	市役所前緑地(仮称)	緑：一 防災：一	沖繩市役所と大通りを結ぶ公共施設緑地。外部に植栽やベンチが並んでいる開けた空間。	災害時に多くの避難者の待機スペースとしての利用の可能性あり。	ベンチの周辺にごみが多く捨てられている。	敷地が平坦で、市役所と近接している利点を生かしたイベント・災害等の利用が可能。	

(c) 広場空間の調査結果のまとめと課題の把握

- 公園・緑地調査結果のまとめを以下に示し、課題を整理した。

■ 調査結果と課題	
調査種別	課題
立地特性	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人の往来が期待できる中心エリアに位置するのは、センター街区公園と胡屋第二公園の2か所のみ（交通結節点も中心エリア）
空間特性	<ul style="list-style-type: none"> 周辺に店舗等が集積し、それらとの連携等が期待できるアクティブ度が高いのはボケットパークと市役所前緑地（仮称）の2か所のみ（交通結節点もアクティブ度が高い）
基盤	<ul style="list-style-type: none"> 広場（7か所）、トイレ（8か所）、水飲み場・手洗い場（8か所）が設置されている公園・緑地が多く、災害時やイベント時の一定程度の人の集積は可能 電源が設置されているのは、上地第一公園のみ 交通結節点と同様に多くの人の往来が想定される「中心エリア」または「アクティブ度が高い」特性を備えているセンター街区公園・胡屋第二公園・ボケットパーク・市役所前緑地（仮称）では、どれもユニバーサルデザインの整備はされておらず、電源は設置されていない
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> 全ての公園・緑地で植栽（高木）が施されている
滞留	<ul style="list-style-type: none"> 9か所の公園・緑地にベンチ、6か所の公園に東屋が設置されており、一時的な滞留は可能 テーブルは3か所のみであり、中心エリアにまたはアクティブ度が高い公園・緑地においては、テーブルは設置されていない
賑わい	<ul style="list-style-type: none"> 遊具は6か所、バスケットコートは2か所に設置されている。しかし、イベントスペース、水遊び場等、遊具・バスケットコート以外の賑わいを誘発する機能はみられない
防災インフラ	<ul style="list-style-type: none"> 防災倉庫、ソーラー電源、マンホールトイレ、かまどベンチ等の設置はみられない。 防火水槽は2か所・消火栓1か所設置されている（周辺の設置状況等により広場内に必要かどうかは別途調査が必要）
サービス補助	<ul style="list-style-type: none"> まちの回遊の誘発に資する掲示板・案内板の設置は4か所。多くの人の往来が期待される中心エリア、またはアクティブ度が高い公園・緑地にはみられない まちの回遊の誘発に資する自転車置き場・シェアモビリティはそれぞれ1か所のみ
位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> センター公園のみ、近隣公園であり、運動、休憩・集い、地域のランドマーク等として位置づけられ、かつ災害時には指定緊急避難場所として定められている 街区公園は身近なオープンスペースとして、上地都市緑地は環境保全、避難地等としていちづけられている
利用状況	<ol style="list-style-type: none"> 広場や水飲み場、樹木、比較的平坦な地形等を有している公園・緑地が多い センター公園は舗装の隆起や植栽の管理が行き届いていない、水栓が使えない 植栽やトイレ、水飲み場等の管理状況に問題がみられる公園・緑地が複数みられる 隣接建物等との一体利用はみられない
機能	<ul style="list-style-type: none"> 中心エリアに位置する立地特性と周辺に店舗等が多数立地するアクティブ度の高さを最大限活かした空間創出・機能導入 <ul style="list-style-type: none"> 多くの公園で一定程度の集積を可能にする設備（広場・トイレ・東屋・植栽（高木の緑陰）等）を有し、公園・緑地の基本的な設備となっている 電源やイベントスペース、テーブル等、多様なアクティビティを可能にする設備等は不足 イベント時や災害時の発電は難しい 一時的な滞留だけでなく、日常時における多様なアクティビティの誘発、イベント時の活用、災害時の活用等、多様な活用を可能にする空間創出・機能導入 <ul style="list-style-type: none"> 高木植栽が交通結節点周辺の公園・緑地の景観等の特性 公園・緑地の特性である緑のある空間を継承し、交通結節点周辺としてふさわしい景観と緑陰等の創出 <ul style="list-style-type: none"> 防災機能・設備を複数備える公園・緑地が不足 建物が集まった一番街商店街に隣接する広場として、防災機能の導入 <ul style="list-style-type: none"> 回遊を促進する設備等が不足 人が集まる交通結節点として、回遊性の向上等を促進する空間創出・機能導入
位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所として明確な位置づけをもつのは、近隣公園であるセンター公園のみ センター公園は、管理上の問題等により一時的な避難場所としての機能を十分に果たせていない 多くの公園で広場や水飲み場等を有しており、日常時や災害時に一時的な滞在は可能であるが、設備や植栽の管理状況に問題がみられ、イベント時や災害時での活用は限定になる 日常からイベント、災害時にも活用可能な広場の管理 <ul style="list-style-type: none"> 隣接建物との一体利用がみられない 中心エリアに位置する特性を活かし、周辺の店舗等との運動により賑わいや回遊性を高める空間創出・機能導入

(3) 広場事例の調査

交通結節点に併設する広場、及び一般的な広場の使い方等の事例調査結果を以下に示す。

(a) 調査の目的

調査種別	目的
ミクロ調査	・交通結節点に併設する広場の事例調査を行うことにより、広場として備えるべき機能や設備、必要な規模等の参考とする
マクロ調査	・交通結節点に併設する広場に限定せず、当該結節点の立地特性や過年度の調査等から求められる広場の在り方等を鑑みながら一般的な広場の使い方等を調査することにより、よりよい広場の在り方検討の参考とする

(b) 収集事例一覧（各写真の出典元は資料の事例詳細に記載）



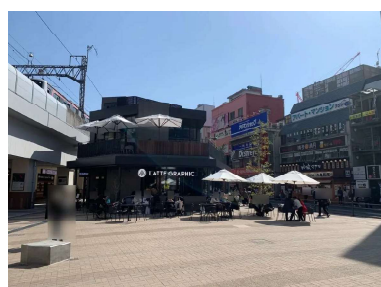
丸岡バスターミナル



加東バスターミナル



新豊田駅東口駅前広場



こすぎコアパーク



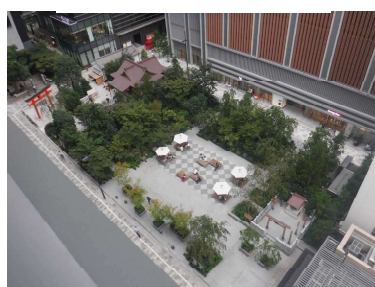
わいわい!!コンテナ2



まちタネ広場



豊橋市まちなか広場



福徳の森



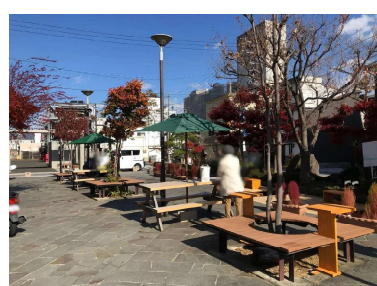
ももに広場



東町防災広場



西戸部羽沢防災公園



辰巳の御庭

(b) 広場事例の調査結果のまとめと視点の整理

- ・ 広場事例調査結果のまとめを以下に示し、要点を整理した。

■ 調査結果と整備の視点

調査結果のまとめ

ミクロ調査
 (交通結節点に隣接する広場)
 ・ 調査したバスターミナルはいずれも、広場と待合兼交流施設の両方を備えている。
 ・ バスターミナルの場合、トイレやゴミ箱、テーブル、飲食店、自動販売機といった機能は、広場ではなく待合兼交流施設に設置されている。

- ・ 飲食店が4箇所中3箇所に設置されている (残る1箇所も過去に露店が営業していた時期あり)。
- ・ 駐車場やタクシー乗り場が隣接しているケースが多い。

マクロ調査
 (一般的な広場)
 ・ 機能性を高めるための倉庫やコンテナの設置が多く見られた (5か所)。
 ・ イベント時の利便性を考慮した可動式の植栽が見られた (3か所)。

- ・ 照明は全ての広場に設置されている。
- ・ 電源はイベント時の使用を想定しているケースが多く、8か所に設置されている。
- ・ 水飲み場・手洗い場も7か所と半数以上に設置されている。
- ・ 建物が広場内にある or 隣接しているケースでWi-Fiの整備が見られた (4か所)。

環境保全
 ・ 1か所を除き、植栽が整備されている。

- ・ ベンチは隣接も含めると全てのケースで整備されている。
- ・ テーブルは隣接も含めると8か所に整備されており、ベンチと合わせて滞留を可能としている。
- ・ 何らかのにぎわい機能を備えた広場は9か所だった。
- ・ 遊具は住宅街、飲食店はバスターミナルや駅前に設置されているケースが多い。

防災インフラ
 ・ かまどベンチ、マンホールトイレ、防災倉庫がそれぞれ2か所ずつに設置されている。

- ・ 消火栓、ソーラー電源については設置しているケースがなかった。
- ・ 防災を主目的とした広場以外においては防災インフラがほとんど見られない。

サービス補助
 ・ 都市部 (東京都市圏を除く) や観光地においては、まちなか駐車場を兼ねた100台規模の駐車場を備えているケースが多い。

公園・緑地調査との比較
 ・ 電源の設置が公園・緑地では1か所に留まったのに対し、広場では8か所に備え付けられている。

- ・ ベンチ、植栽は公園・緑地、広場のいずれにおいてもほぼ全てに整備されている。
- ・ かまどベンチ、マンホールトイレ、防災倉庫は、防災を主目的とした広場に高い確率で整備されているものの、公園・緑地においては全く見られなかった。

・ 広場特有の施設として、にぎわいを生む飲食店やコンテナの設置が見られた。

利用状況
 ・ 市民主体での活用を促す仕組み (ガイドブックやパンフレットの作成・周知、段階的整備等) が用意されている広場が複数見られた。

- ・ イベントスペースとして貸し出す場合の利用料は、東京都市圏を除いて無料~2万円程度/日に抑えられており、市民団体等が利用しやすくなっている。

・ キッチンカーやマルシェ等のイベントが日常的に行われているケースが多い。

パブリックスペース整備の視点

【機能】

- ・ 限られたスペースであっても、必要最低限の防災設備導入は可能
 ⇒ 建物が密集した一番街商店街に隣接する広場として、防災機能の導入
- ・ 照明、電源、水飲み場・手洗い場は日常利用だけでなくイベント利用まで考えると、ほぼ必須のインフラとなっている。一部の広場では照明に工夫が見られ、昼とは違った雰囲気を楽しめる仕掛けがされている。
 ⇒ 胡屋のまちに誘う入り口として、昼夜を問わず安心かつ快適に過ごせる空間の創出

- ・ 多くの広場では植栽が整備され、中には土地の歴史や文化を意識したものもある。
 ⇒ 歴史や文化を意識したデザイン、ランドスケープによるアイデンティティの継承・表現

【現

- ・ 多くの人が行き交い、滞在するスペースの特性からチャレンジャや小商いに適した場所として認識されている。

- ⇒ 市民主体による活用を可能とし、多様な活動が生まれるプラットフォームのような場所づくり

【規模】

- ・ 広場の面積は調査した12か所のうち、半数以上の7か所が700㎡以下となっている。防災広場に限定し最も小さいものは200㎡であった。

- ⇒ 平時は多様な活動の舞台となり、災害時は一時避難場所として機能する300㎡~700㎡程度を確保

【設備】

- ・ イベント利用を可能にする電源、水道の設置
- ・ 限られたスペースに設置可能な防災設備の設置
- ・ 周囲の景観と調和する植栽の導入
- ・ 日常的のにぎわいを生む設備の設置

【整備手法】

- ・ 市民主体の活用を促すためには、設備だけでなく仕組みのデザインが必要になる。
 ⇒ 広場利用者の声を取り入れた段階的整備

(5) コンセプト・機能の検討

「コンセプトや機能の検討に向けた視点の整理」を踏まえ、オープンスペースのコンセプトと導入すべき機能等を整理する。

- ① コンセプトや機能検討に向けた視点
- ② 「人を迎え、まちへと送り出す結節空間」
- ③ 「地域の店舗や施設と響き合う交流空間」
- ④ 「日常からイベント・災害まで多様な顔を持つ柔軟な空間」
- ⑤ 「コザらしい文化と景観を映し出す象徴空間」
- ⑥ 「安全・安心を支える防災拠点空間」
- ⑦ 「広場・街路・緑地をつなぎ回遊を促すネットワーク空間」

■ コンセプト案 マチガーキよてん

まち全体で必要な機能や空間を満たし、水が湧くカーのように様々な人や活動が湧き出す拠点

湧き出す人

| 地元住民・店主・観光客・子ども・学生・大人・高齢者・行く人・来る人・通る人… 多様な人が使う空間

湧き出す活動

| 待つ・喋る・食べる・憩う・遊ぶ・集う・読む・眺める・座る・運動する・商う… 多様なアクティビティを生み出す空間

湧き出す時間

| 夜だけでなく、昼でもイベントでも災害時でも、1分・1時間・1日・1週間でも… 多様な時間に応じた使い方が生まれる空間

湧き出す空間

| 小さな空間・大きな空間・屋根のある空間・道路やお店と一体の空間… 多様な空間を可能にする可変的で開かれた空間

■ 導入機能イメージ

① 結節機能



- ・待合スペース
- ・飲食スペース
- ・乗降スペース
- ・広場
- ・トイレ
- ・時計 など

バスを待つ人、バスから降りた人が次のアクティビティに向けて滞在する機能、周辺の店舗・景観等との境界があいまいで連続・結節する機能

② 交流機能



- ・コンテナ
- ・飲食店
- ・飲食スペース
- ・ゆんたくスペース
- ・住民管理・使用の備品 など

子どもからお年寄り、地域の人から観光客まで多様な人々が集い、思い思いの時間を過ごしながらいつもの交流が生まれる機能

③ 柔軟で可変的な機能



- ・イベントスペース
- ・一時避難場所
- ・ゆんたくスペース
- ・飲食スペース
- ・イベント・災害対応設備 など

日常・イベント・災害時、一人でも大人数でも活用できる、柔軟で可変的な利用を可能にする機能

④ 文化発信機能



- ・エイサーの練習スペース
- ・コザらしい植栽
- ・音楽ステージ
- ・情報板 など

沖繩市、コザ、胡屋ならではの活動が実践され、地域の伝統や誇り、カルチャーを表現・醸成する舞台としての機能

⑤ 防災機能



- ・一時避難場
- ・トイレ
- ・電源
- ・防災倉庫
- ・かまどベンチ など

商店街や近隣住民の一時避難先、ミニ防災拠点として防災設備が整備され、日常に少しの安心感をもたらず機能

⑥ 回遊・情報発信機能



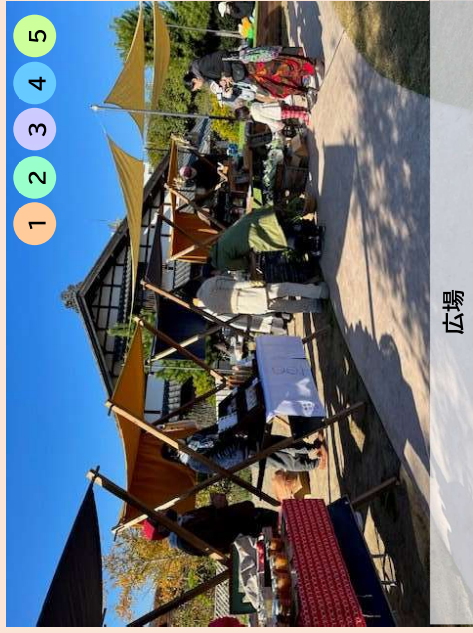
- ・案内板
- ・Wi-Fi
- ・時計
- ・店舗と連続した空間
- ・周辺と調和した植栽 など

バスを始めとした多様な交通手段が集まる玄関口として、人々に必要な情報・景観・周辺店舗との連続性を与え、まちなかに誘導する機能

(6) 設備の検討

交通結節点に創出するオープンスペースのコンセンサスや機能を満たすために設備を以下に整理した。なお、各設備が担う機能は前頁の「導入機能イメージ①～⑥」を参照。

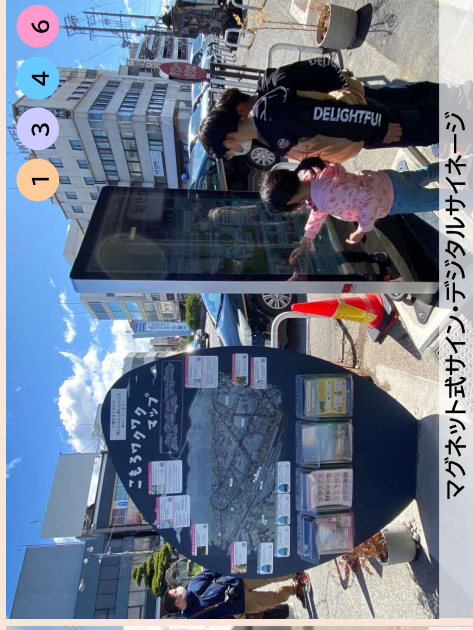
■パブリックスペースに必要な設備イメージ



広場



コンテナ



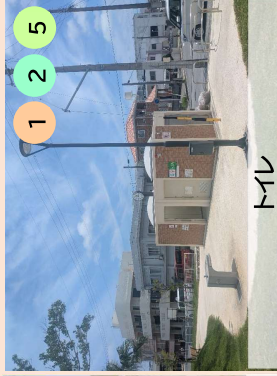
マグネット式サイン・デジタルサイネージ



電源



備品・防災倉庫



トイレ



かまどベンチ



マンホールトイレ



植栽



東屋



照明



テーブル・日よけ



水道



時計

■交通結節点との連携を考慮し周辺で導入する機能・設備

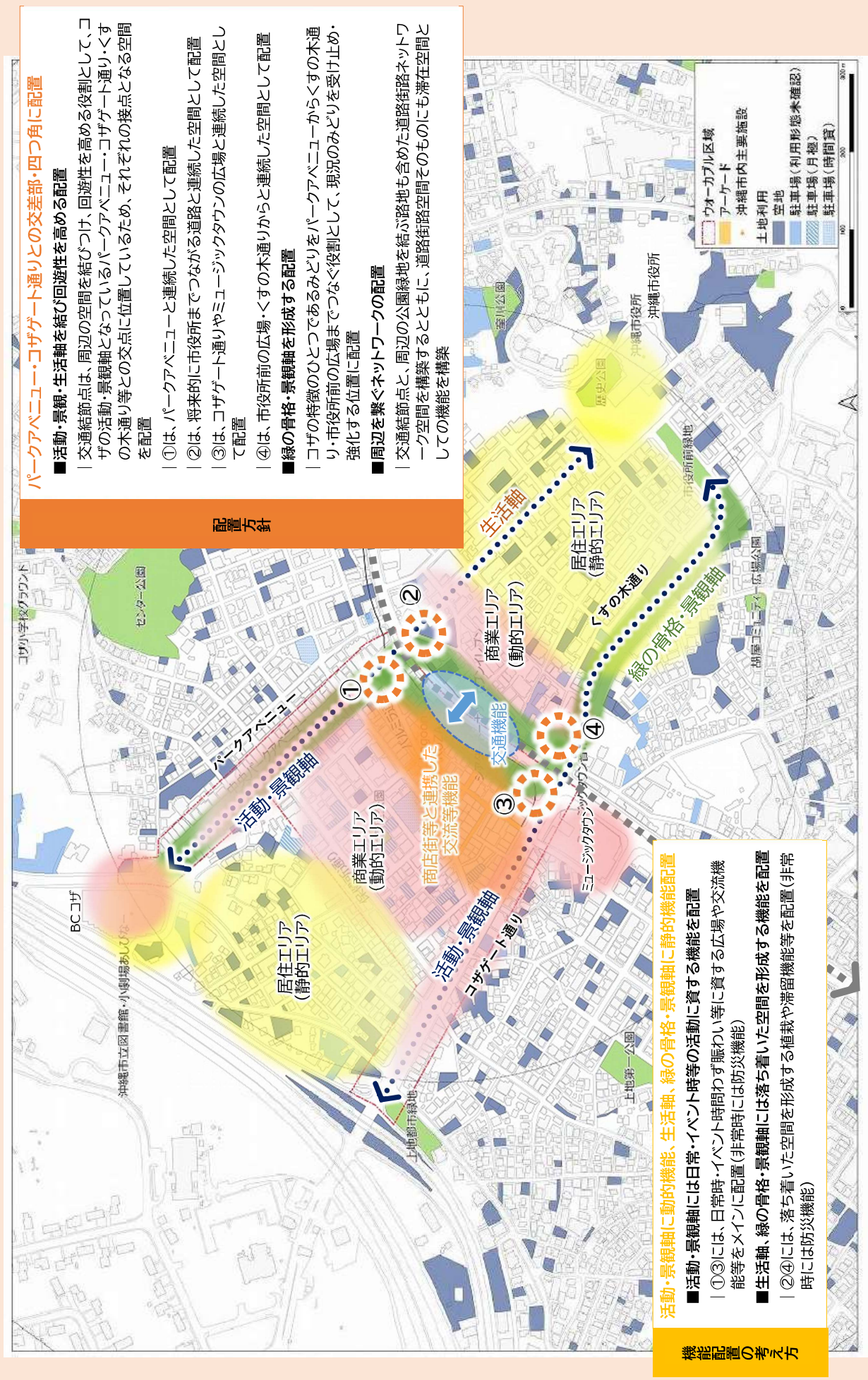
多様な交通の結節点として機能することを目指し右記の設備を整備する。

- ・駐車場(駐輪場)
- ・タクシー乗り場
- ・シェアモビリティポート
- ・EV充電スポット

写真出典元：上段左から：㈱URリンケージ、㈱現代建築 HP、㈱URリンケージ、星野総合商事㈱HP、㈱URリンケージ、信建工業㈱HP、(一社)日本グラウンドマンホール協会 HP
下段左から：㈱URリンケージ、㈱サイト HP、日本街路灯製造㈱HP、西東京いこいの森公園 HP、信建工業㈱HP、セイコータイムクリエーション㈱HP

(7) 配置方針・機能配置の検討

交通結節点周辺の現状及び将来的な土地利用や空間特性等を踏まえ、オープンスペースの配置と機能配置の考え方を以下に示す。



パークアベニュー・コザゲート通りとの交差部・四つ角に配置

■活動・景観・生活軸を結び回遊性を高める配置

交通結節点は、周辺の空間を結びつけ、回遊性を高める役割として、コザの活動・景観軸となっているパークアベニュー・コザゲート通り・くすの木通り等との交点に位置しているため、それぞれの接点となる空間を配置

①は、パークアベニューと連続した空間として配置

②は、将来的に市役所までつながる道路と連続した空間として配置

③は、コザゲート通りやミュージックタウンの広場と連続した空間として配置

④は、市役所前の広場・くすの木通りからと連続した空間として配置

■緑の骨格・景観軸を形成する配置

コザの特徴のひとつであるみどり通りをパークアベニューからくすの木通り・市役所前の広場までつなぐ役割として、現況のみどりを受け止め、強化する位置に配置

■周辺を繋ぐネットワークの配置

交通結節点と、周辺の公園緑地を結ぶ路地も含めた道路街路ネットワーク空間を構築するとともに、道路街路空間そのものにも滞在空間としての機能を構築

配置方針

活動・景観軸に動的機能、生活軸、緑の骨格・景観軸に静的機能配置

■活動・景観軸には日常・イベント時等の活動に資する機能を配置

①③には、日常時・イベント時問わず賑わい等に資する広場や交流機能をメインに配置(非常時には防災機能)

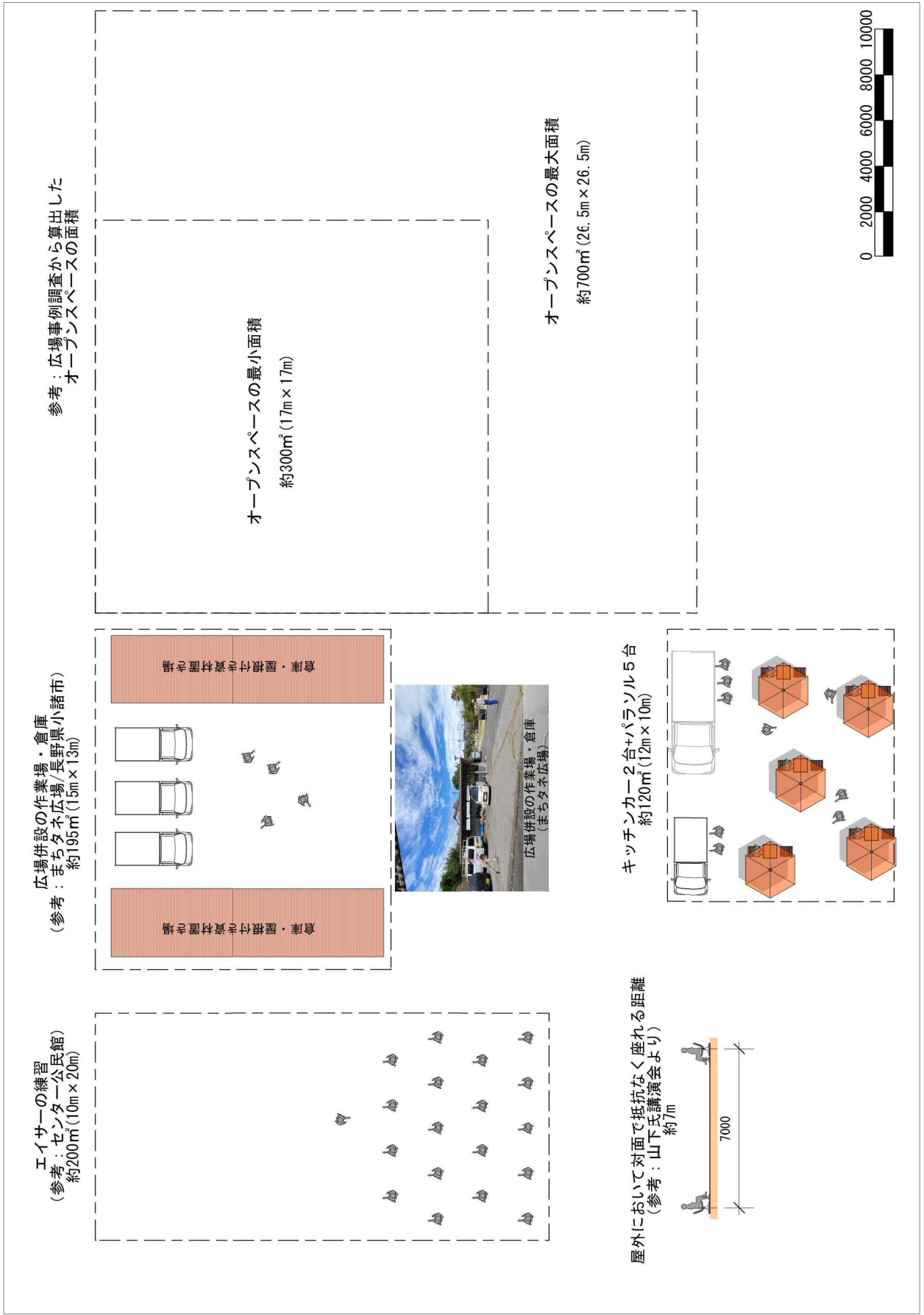
■生活軸、緑の骨格・景観軸には落ち着いた空間を形成する機能を配置(非常時には防災機能)

②④には、落ち着いた空間を形成する植栽や滞留機能等を配置(非常時には防災機能)

機能配置の考え方

(8) オープンスペースの規模の検討

自治会での利用実態（センター公民館）、広場事例調査、今年度実施した講演会の講師の意見等を踏まえ、オープンスペースに必要な面積を検討し、以下に示す。



2-2-2 空地活用に向けた実証実験の実施・効果検証

(1) 空地活用に向けた実証実験の企画・運営

(a) 概要

■タイトル：空き地からコザを作ろう！～マチガーキよてんづくり～

日時：令和7年11月22日（土）10時～19時・23日（日）10時～16時

場所：国道330号沿道空地・一番街商店街 他

※市民等の多くの方に取組を知ってもらえるよう、他のイベントと同日開催とする。

(b) 交通結節点周辺の課題

交通結節点には、交通にかかるとしての機能だけではなく、交流機能等も求められている。交通結節点の整備までには、建物の除却等による空き地が発現することから、それらを有効に活用しながら将来的に整備する広場について「活用しながら考える」ことで、近隣の商店主や住民、交通結節点利用者等にとって有意義な空間や機能等を創出することが将来的に有効な整備につながると考える。

ここでは、昨年度に作成した「沖縄市ウォークブル推進計画（案）」に示されている課題を以下に整理し、今年度の実証実験の目的や実施方針等につなげる。

■課題

まちの更なる魅力向上 による地域の活性化	・個性的で魅力ある商業活性化の展開（大型商業施設との差別化） ・空き店舗、閉鎖店舗対策 ・交通結節点の整備を見据えたまちづくり ・地域資源の県内外への情報発信
アクセス性・ 回遊性の向上	・交通結節点の整備 ・新たな公共交通システムの導入 ・公共交通機関の利便性強化 ・拠点施設からのまちなかへの誘客
安全安心な環境整備	・明るく安心して歩きたくなる環境形成 ・建物老朽化対策
沖縄市らしい景観形成	・国際色豊かな空間の継承 ・地域資源を活用した交流機会の拡充

(c) 目的

上記の課題等を踏まえ、今年度の実証実験の目的を以下に示す。

視点	目的
① 当面	▪ 除却により発現する空地を資源ととらえ有効活用することで、まちの活性化等に資する使い方等を検討する
② 運営	▪ 実験的な広場空間創出やまちの魅力向上等に資する取組が地元根付き、今後も複数年にわたって継続されることを目指し、地元商店会や住民・学生等による自発的・積極的な関わりと行政のバックアップ体制の構築を促す

(d) 実施の方向性

- A 空地や既存店舗等で複数の拠点を展開し、まちの回遊性向上等を促進
- B 地元商店会や住民・学生等に対して、活用可能な資源として空地を提供することで、空地の効果的・自発的な活用を促進
- C 地元商店会や住民・学生等との連携の強化、地域と共同による運営
- D 賑わいの効果（回遊性・周辺店舗の売上等）を把握

(e) 実施内容

実施場所は地権者、地元の協力店舗等の意向を踏まえ複数選定し、地元商店会や住民・学生等との共同により、実証実験を実施する。

■実施場所・内容等

実施場所	面積	実施内容等	実施主体
① 国道 330 号沿道 空き地	約 170 m ² (W12×D14m)	滞留・賑わい空間創出 飲食ブース 1 物販ブース 3 体験ブース 3 ※ブースは 1 日のみの出店もある BGM その他休憩スペース、パネル展示等	市 地元
② 一番街商店街店 舗（交流拠点）	-	産学民の連携によるパネル展示等 スタンプラリー等による連携	市
③ ②～他 2	-	スタンプラリー 交流拠点・プレイヤーズカフェ・GATORS 前 テントにスタンプを設置 (回ってきた人には景品プレゼント)	市
他 1 パークアベニュー ー	-	4 丁目ミュージックマルシェ（22 日開催） スタンプラリー等により沿道店舗等と連携	
他 2 ゲート通り	-	沖縄国際カーニバル（22 日開催） スタンプラリー等により沿道店舗等と連携	

○出店ブース詳細

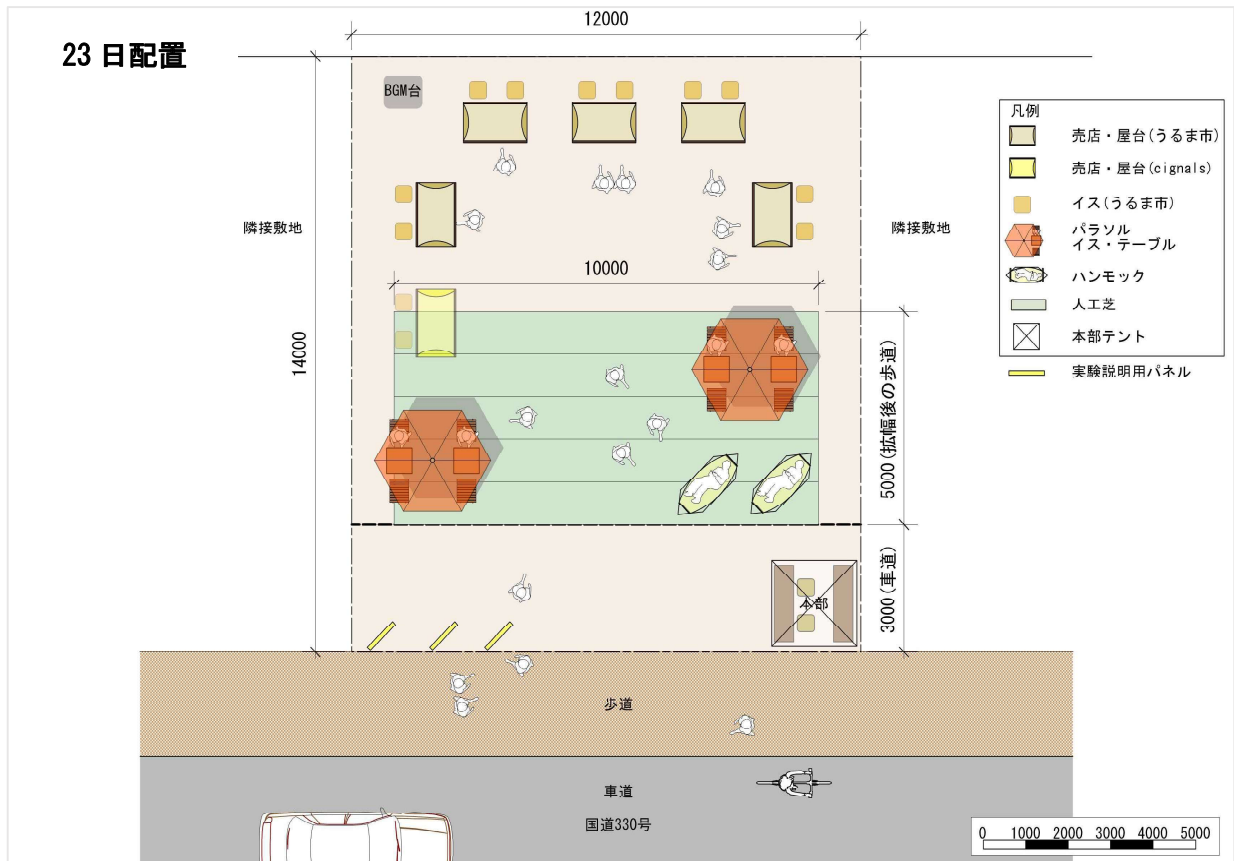
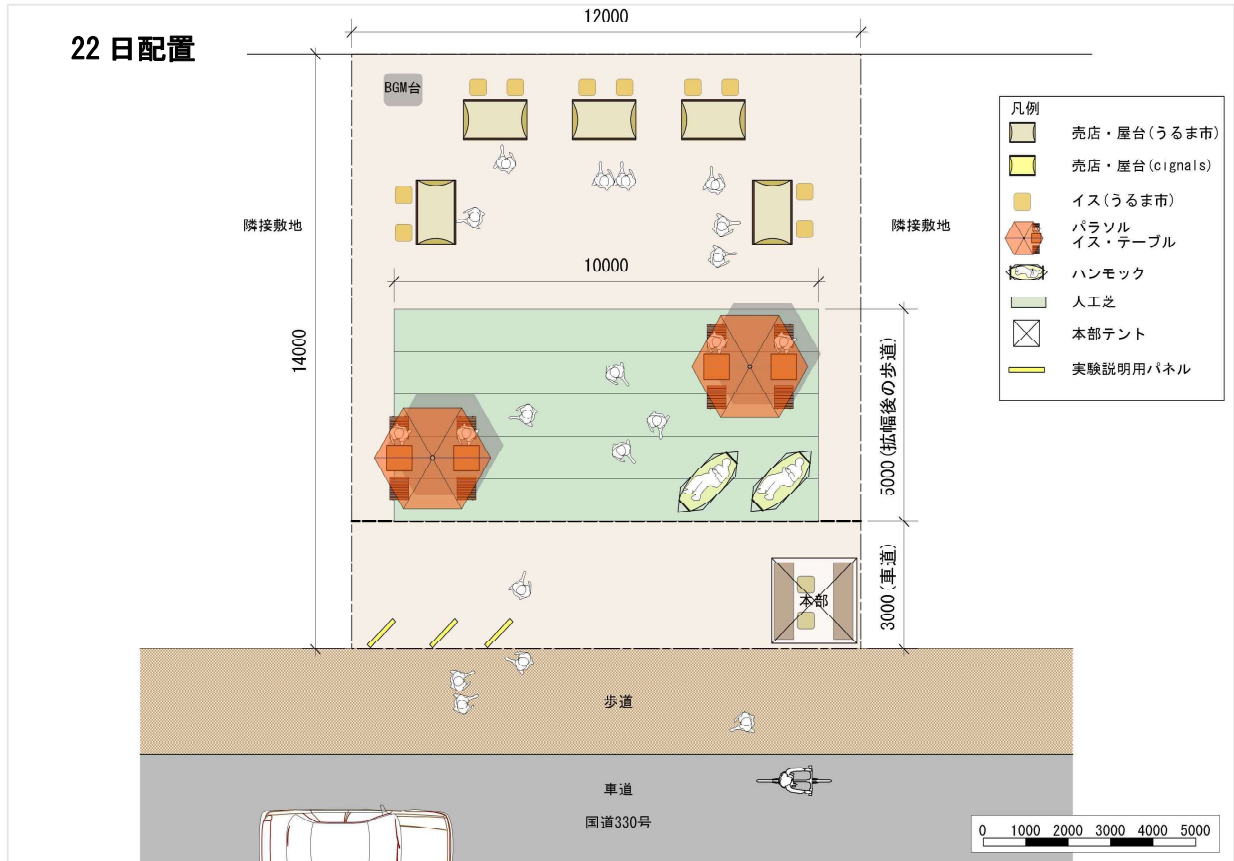
No	出店日		種別	出店内容
	22日	23日		
1	○	○	飲食	揚げパン・アルコール等販売
2		○	物販	雑貨・衣類販売
3	○	○	物販	植木販売
4	○		物販	雑貨・アクセサリ販売
5	○	○	体験	ネイル体験
6	○	○	体験	マッサージ体験
7		○	体験	ヒーリング体験

(f) 実施場所

■位置図



■①平面配置イメージ (案)



■主な役割

役割等	実施内容
準備/片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き地に集合し、レク後備品（うるま市備品・リンケージ備品）等を設置・片付け ・ 片付け後は、リンケージ備品の大型（人工芝・パラソル・机イスセット・ハンモック）は、交流拠点（ファッション友）で保管。地元の方は必要に応じて、今後利用可。 ・ 使わないものは、隣の空き地でシートをかぶせて保管、またはファッション友で保管
アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート、クイズスタンプラリーの呼びかけ・配布 ・ アンケート・ボールペン・クリップボードを渡して記載してもらう ・ 回収したアンケートの右上の記載欄確認、本部受付回収ボックスへ ・ アンケート・スタンプラリーをやってくれた方には、お菓子（スナック系1・アメ2）または非常食1を案内 ・ アンケートは一人1枚まで ・ 各日、空き地の最終アンケート担当は、出店者に聞き取りアンケートを実施
受付	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレ（ミュージックタウン、BCコザ）の場所の案内 ・ アンケート、クイズスタンプラリーの呼びかけ・配布 ・ アンケートの回収、アンケート票の右上の記載欄確認 ・ アンケート・スタンプラリーをやってくれた方には、お菓子（スナック系1・アメ2）または非常食1を案内 ・ アンケートは一人1枚まで ・ その日の最後の受付の人は、記入済みと未記入の「アンケート」・「空き地人数カウント表」をA4封筒などに、分けて収納する。記入済みのものはA4封筒に分かりやすく日付などを記載しておく。URリンケージスタッフがまとめて持ち帰る。
カウントスタンプ写真	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き地にいる人を毎時00分のときにカウントし、カウント表に記入 ・ ラリー用のスタンプがあるか見回り。予備のスタンプ、麻ひも、マスキングテープ、ハサミを持参し、スタンプが紛失していたり、インクが切れていた場合には取り換える。（トートバッグに一式入っています） ・ スタンプ設置場所：GATORS店舗前テント@ゲート通り（23日はナシ） 交流拠点（ファッション友）@商店街 プレイヤーズカフェ テラス@パークアベニュー ・ まちなかを歩き、4丁目マルシェやカーニバル等の様子も記録に収める
スタンプ設置片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタンプ設置には、①スタンプ各設置場所を示すサイン、②スタンプラリーサイン、③スタンプ・麻ひも・ハサミ等を持参（トートバッグに一式入っています）し、ラリーの場所だと認識できるように、設置 ・ 22日はGATORS店舗前（@ゲート通り）ではパネルの展示をしているので、本部の小テーブル（茶）1つを持参し、その上にスタンプを設置 ・ 22日の片付けは、忘れずに小テーブル（茶）も本部に持ち帰ること ・ 23日は、GATORS店舗前（@ゲート通り）でのスタンプラリーはナシ ・ スタンプ片付けの人は、空き地内の人数をカウントしてから片付けへ
全体補助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備・片付け等の優先順位の判断、全体の指示 ・ 会場を回りながら、危険がないか等を見て回り、適宜声掛け ・ 人手の足りない場所の補助 ・ 会場の風景と道路風景（人通り）を適宜写真撮影

(g) 参考資料

■ チラシ

空き地から コザを作ろう!

～マチガーキョてんづくり～

KOZAに遊びに行こう!

国道の空地やまちなか交流拠点を利用して、水が湧くカーのようにまち全体が拠点となり
賑わいが湧く空間を実験的に作り、体験してみませんか?
マーケットやスタンプラリー、くつろぎ空間などで一緒に楽しみましょう!!

日時 令和7年 **11月22日** (土) 10:00～18:00
11月23日 (日) 10:00～16:00
小雨決行・荒天中止

場所 国道330号沿道空地・一番街商店街 他

22日(土)は、4丁目ミュージックマルシェ、沖縄国際カーニバルのイベントもやってるよ!

4丁目ミュージックマルシェ

本部にて開催中!

本部にて開催中!

本部にて開催中!

本部にて開催中!

本部にて開催中!

まずはここに来てね!

実施場所①・本部

実施場所②

スタンプラリーを回ってアンケートに答えてくれた方には景品プレゼント!
※数に限りがあります

主権: 沖縄市 業務受注者: (株) 中央建設コンサルタント、(株) URリンクージ共同企業体
実験に関するお問い合わせ 株式会社 URリンクージ 地戸・今村 TEL: 098-860-9677 E-mail: ikedo-b@urlk.co.jp
業務に関するお問い合わせ 沖縄市 建設部 都市整備室: 喜友名・吉川 TEL: 098-939-1212 (内線 2519)

空き地からコザを作ろう! ~マチガーキョで人づくり~

スタンプラリー

令和7年 11月22日(土) 10:00~18:00
11月23日(日) 10:00~16:00
(小雨決行・荒天中止)

**3つのスタンプを
それぞれのポイントで
ゲットしよう!**

★マークはスタンプラリー
ポイント

沖繩国際カーニバル
ポイント2
ゴザゲート通り沿い
GATORS店舗前

ポイント1
アーカード街
アパウゾフン及
(本部がある空き地の裏)

ポイント3
パークアベニュー
通り沿い
プレイヤーズカフェ
テラス

4丁目ミュージック
マルシェ

スタート
&
ゴール
地点
本部(空き地)

3つのスタンプを集めたら、
本部にて簡単なアンケートに
答えて景品をゲットしてね!
※数に限りがあります

やまなが通り
保健所通り
コザゲート通り
ミュージックタウン
音市場
王曾天間
サンサン通り
セブーン
イレブ
普久原楽器店
コザゲート通り

KOZAI
遊びに
行コッガ!

■ 掲示用パネル1（空き地を使ってみたいですか？） / A1

空き地からコザを作ろう! ~マチガーキョてんづくり~

空き地を使って みたいですか?

今後、国道の拡幅にともなって、沿道に空き地が出現してきます。
空き地を使ってみたいと思う方は、まずはご相談ください。

アンケートに答えて、連絡先をお知らせください。

※アンケートは本部に置いてありますので、お声がけください。

沖縄市 建設部 都市整備室 TEL: 098-939-1212 (内線 2519)

■ 掲示用パネル2（防災パネル） / A1

まちづくりから考える交通結節点に必要な機能 沖縄市

- 沖縄市は、交通ターナル・道路・まちのつながりに配慮し、歩行者、自動車等交通、利用者サービスの空間のバランスに留意し、最適な空間づくりを検討を行う。
- 交通空間は、交通の需要動向、他拠点との接続性、まちづくりの拡張性など、まちの活力を創出するための拠点づくりとなる役割を踏まえ、必要な機能の検討を行う。

交通機能

【必要機能（骨子案）】

① 利用者の利便性を高める環境の構築
例) バス乗降施設、待合施設、多様な支払い決済施設・設備、トイレ・授乳施設、ユニバーサルデザイン、タクシー乗降施設、シェアリングモビリティ、P&R施設・自家用送迎乗降施設等

② 公共交通事業の維持確保につながる環境の構築
例) 運転手の休憩施設、検車場、停留場、連節バス、EVバス等

交流等機能

【必要機能（骨子案）】

③ 周遊促進や中心市街地への誘導による、地域の賑わいの創出
例) ウォークアブルな道路空間、サイン等

④ 都市の拠点としての空間やチャンプルー文化を活かした交流・支援活動の創出
例) 景観デザイン、観光バス乗降施設、広場、まちづくり拠点、案内施設等

防災機能

【必要機能（骨子案）】

⑤ 防災機能の強化
例) 災害対応車両の駐車施設、無電柱化、情報発信施設、非常用電源等

参考) 第2回胡屋地区交通結節点整備検討委員会資料



沖縄市交通拠点整備基本構想 ～胡屋・中央地区バスタプロジェクト～

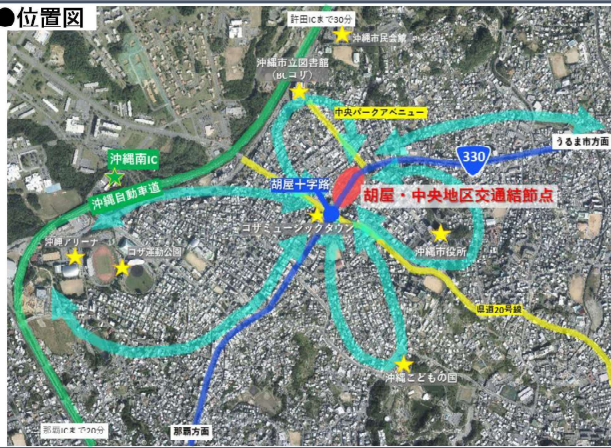
令和6年6月



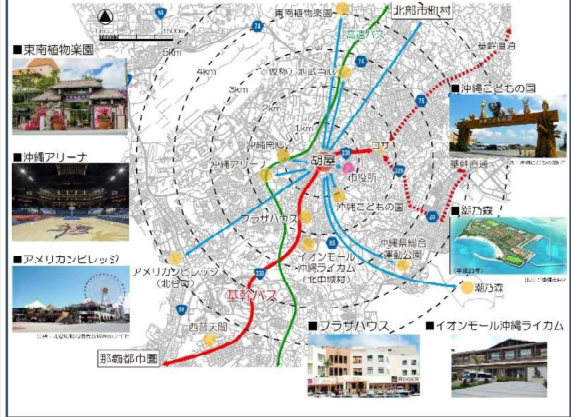
沖縄市HP

沖縄市では、国道330号の胡屋・中央地区において、バスターミナルを活用した、誰もが快適に移動し易い都市の実現、本市中心市街地の活性化、中部圏域の振興に資する交通拠点の形成に向け、地域の皆さまや、国、県、関係者と共に50年後の未来を見据えたまちづくりに取り組んでいます。

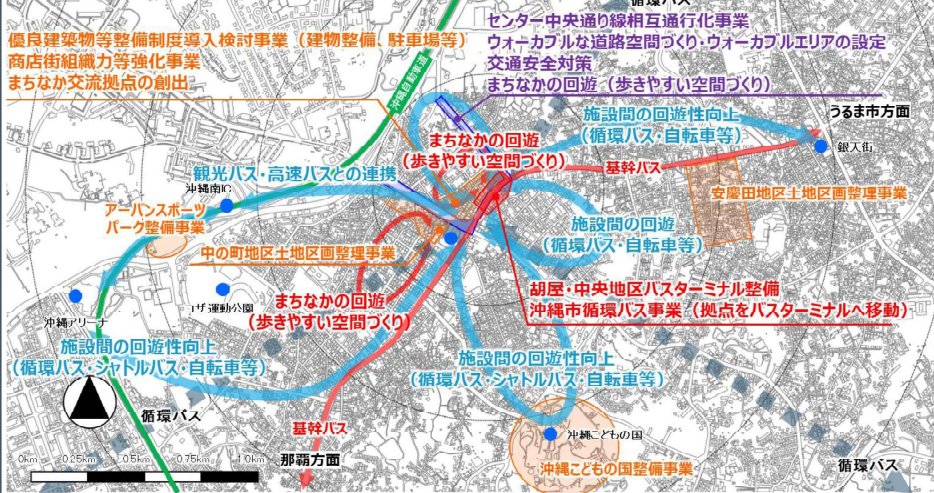
●位置図



●都市間交流イメージ



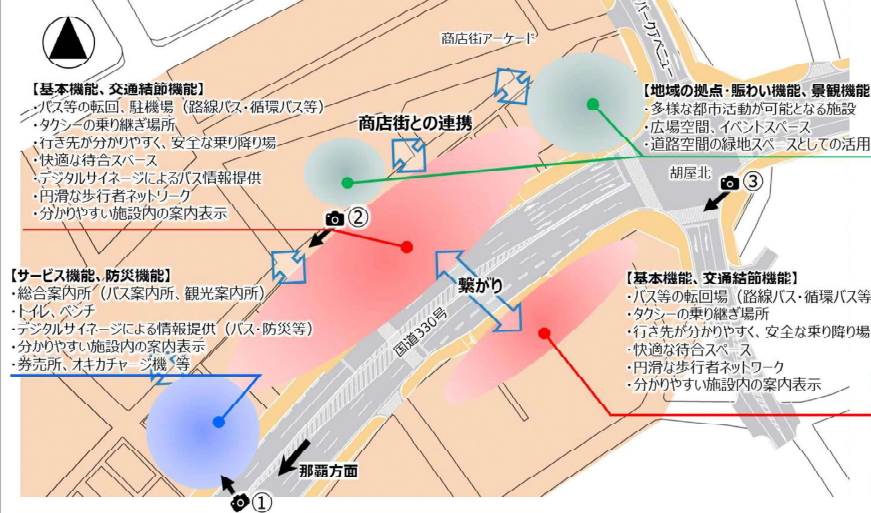
●交通拠点を中心とした賑わい創出の取組み



●整備のための方向性

- 【将来像】**
KOZAのみんなで作る、活気に満ちたまち
- 【基本的方針】**
- 方針① だれもが楽しめる、居心地がいい場づくり
 - 方針② まちとまちとの結びつきを強くする場づくり
 - 方針③ まちなかの結びつきを強くする場づくり
 - 方針④ KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり
 - 方針⑤ より安全で安心なまちづくり

●交通結節点の機能イメージ



(h) 実証実験の運営

■ 当日の様子



(2) 実証実験の効果検証

(a) 効果検証方法の検討

■実証実験の効果・課題等の抽出

来街者、運営協力者、出店者等へのアンケート等により、地域に定着するための課題と今回の実証実験の効果を検証

■調査概要

調査対象	調査内容 (…以降は、実施の方向性との整合性確認) A：回遊性向上等の促進 B：空地の効果的・自発的な活用促進 C：地域との連携強化・共同運営 D：賑わいの効果（回遊性・売上等）把握	調査手法	備考
来訪者	① 属性…基礎情報 ② どこから、誰と来たか…基礎情報 ③ 交通手段…基礎情報 ④ 来訪の目的（何を目当てに来たか）…基礎情報 ⑤ 良かったもの…A B C D ⑥ 改善点（自由記述）…A B C D ⑦ 満足度…A B C D ⑧ 巡った（巡る）場所…A ⑨ 今後試してみたい事、実証実験参加への興味…B C	アンケート	
運営協力者	① 各会場にスタンプ等を設置…A D ① 実施した内容（実施コンテンツ）…基礎情報 ② 今回の体制（運営者数）…C ③ 今回運営しての感想（是非またやりたい、誘われればやりたい、やりたくない等）…B C ④ 今後も参加した場合の適切な頻度（年1回、年3～4回、月2回以上、月1回）…B C ⑤ 当日の様子で、よかったこと…A B C ⑥ 来年度以降も実施していくための課題…B C ⑦ 今後に向けてのアイデア…A B C	アンケート	・運営協力者・出店者への質問内容が類似していることから、調査を1つのアンケートに集約し、同じ質問とする
出店者	① 店舗名…基礎情報 ② 売上（他イベントとの比較）…D ③ 今後の出店意向…B C ④ 今後も出店した場合の適切な頻度（年1回、年3～4回、月1回、月2回以上）…B C ⑤ 当日の様子で、よかったこと…A B C ⑥ お客さんからの反応（自由記述）…A B C D ⑦ 改善点や課題…A B C ⑧ 今後に向けてのアイデア…A B C		

■ 来訪者アンケート調査方法

調査方法詳細	留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き地内、330号沿いでアンケートの記入依頼と回収を行う ・ アンケート依頼時に、<u>表面の事務局記載欄を記入</u>してから、アンケートを渡す →受付では、<u>事務局記載欄を確認し、記載がない場合は、記入</u> ・ アンケート記入依頼時に、<u>協力いただけたらお菓子または非常食を渡すことを伝える</u> ・ 受付、アンケート調査員、他手の空いている人が記入を依頼する ・ 本部でアンケートを回収する ・ 各アンケート担当は、自分の担当時間終了後、本部の受付スタッフにまとめて受け渡し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 余裕があれば聞き取りを行い、調査員が記入する(子どもを抱いている親等にもアンケート調査が可能になるため)

■ 運営協力者・出店者アンケート調査方法

調査方法詳細	留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営協力者・出店者に聞き取りを行い記入 	

(b) 来訪者アンケートによる効果検証

(i) 調査概要

調査目的	実施の方向性に示した「A：空地や既存店舗等で複数の拠点を展開し、まちの回遊性向上等を促進」「B：地元商店会や住民・学生等に対して、活用可能な資源として空地を提供することで、空地の効果的・自発的な活用を促進」「C：地元商店会や住民・学生等との連携の強化、地域と共同による運営」「D：賑わいの効果（回遊性・周辺店舗の売上等）を把握」の効果を検証する。	
調査日時	令和7年11月22日（土）10時～19時・23日（日）10時～16時	
調査箇所	国道330号沿道空地 国道330号	
調査項目	Q1	回答者の方について教えてください（ひとつに○）/性別・年齢
	Q2	どちらから来ましたか（ひとつに○）
	Q3	どなたと来ましたか（ひとつに○）
	Q4	ここまでの主な交通手段を教えてください（ひとつに○）
	Q5	胡屋・中央地区への来訪頻度を教えてください
	Q6	本日の来訪・参加の目的を教えてください（あてはまるもの全てに○）
	Q7	本日のイベントで、胡屋・中央地区にどの程度の時間を過ごされましたか（過ごす予定ですか）
	Q8	本日のイベント以外で回られた場所がありましたら教えてください
	Q9	目的のイベントを知ったきっかけを教えてください（あてはまるもの全てに○）
	Q10	空き地などを使った取組のうち、良かったものとその理由を教えてください（あてはまるもの全てに○）
	Q11	空き地からコザを作ろう！の満足度を教えてください（ひとつに○）
	Q12	空き地からコザを作ろう！で改善すべきものがあれば教えてください
	Q13	今後、空き地などを使った取組であつたら良いもの・こと、試してみたいこと、アイデアを教えてください
	Q14	今後、空き地などを使った取組への興味等について教えてください（ひとつに○）
	Q15	Q14 今後の活動に参加したいと答えた方にお聞きします。どのような参加ができそうですか（あてはまるもの全てに○）
	Q16	自ら企画・運営及びイベント等の出店に関わりたいという方は、是非ご連絡先をお知らせください
	Q17	その他、ご意見やご感想があれば教えてください
備考	11月22日（土）は沖縄国際カーニバル、4丁目ミュージックマルシェと同時開催	

サンプル数	51
-------	----

(ii) 来訪者アンケート結果の概要と考察

i) ■来街者アンケート調査結果概要（全サンプル：計 51）

項目	概要
単純集計	
基礎項目	<ul style="list-style-type: none"> ・性別は男性が 41.2%、女性が 29.4% ・年代は 30 代が 31.4%、次いで 40 代が 21.6%と子育て世代が多い
どこから来たか	<ul style="list-style-type: none"> ・市内からの来訪者が 51.0%と最も多く、市外が 41.2%、県外からは 5.9%
誰と来たか	<ul style="list-style-type: none"> ・未就学と小学生以上を合わせた家族は 19 件と、一人（22 件）に近い件数
交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩が最も多く 39.2%、次いで自動車が 33.3%、バスが 19.6%と続く。50%近くが徒歩または公共交通（バス）で来場しており、自動車は全体の 30%程度
来訪頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、週に数回、月に数回が同率の 23.5%で、全体の約 70%。比較的頻繁に胡屋・中央地区に来訪している人の来場が多くみられた
来訪目的（複数回答）	<ul style="list-style-type: none"> ・本実証実験のコンテンツ（合計 21 件）を目的として来場した人が、沖縄国際カーニバルを目的とした人と概ね同数
滞在時間	<ul style="list-style-type: none"> ・3 時間以内の滞在が 37.3%と最も多く、それ以上もしくはそれ以下の滞在時間は概ね 10%前後 ・1 時間以上滞在した人は、22 日が 61.9%であるのに対し、23 日が 33.3%とおおよそ半分の割合
本イベント以外で回った場所	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者 26 人のうち 24 人（=92.3%）の回遊がみられた ・周辺店舗を回った人が 19.6%と最も多く、他の場所を回った人の 2 倍以上
イベントを知ったきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシが 13 件、市の HP や SNS が合計 13 件と最も多く、家族・職場・知り合いからの紹介が 11 件と続く
良かったもの	<ul style="list-style-type: none"> ・空き地の飲食、物販が 28 件と最も多く、スタンプラリーが 11 件、空き地の滞在・滞留空間が 10 件と続く
満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・とても満足とやや満足の合計が 70%以上であり、肯定的な意見が多数
改善すべきもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ブース・出店に関する意見が 5 件、設備・展示に関する意見が 3 件、情報発信・告知に関する意見が 2 件と続く ・具体的には、椅子がたくさんあるといい、もう少し飲食があるといい、もっとアピールした方がいい、開催頻度を増やしてほしい 等
あったら良い・試してみたいもの・こと	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び場とマーケット・マルシェが最も多く 4 件、滞在・滞留空間、音楽・パフォーマンス、その他イベント・ブースが 2 件と続く
空き地を使った取組への興味	<ul style="list-style-type: none"> ・興味はあるが 58.8%、今後の活動に参加したいが 15.7%と、70%以上の方が今後の活動に興味を持っている
今後どのような参加ができそうか	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等へお客さんとして来場が最も多く 27 件、イベント等への出店が 6 件、自ら企画・運営が 3 件と続く
自ら関わりたい方の連絡先	<ul style="list-style-type: none"> ・お名前・連絡先記載者数：4 件
その他・意見や感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうど座りたいタイミングでイスとテーブルがあったので良かった ・国際カーニバルと連携してウォークラリーができればよかったのでは？ ・朝とか昼（特にランチタイム）に気軽によれる飲食スタンドがあると良い ・こうした取り組みが広がるといい

項目	概要
クロス集計	
どこから来たか×交通手段	<ul style="list-style-type: none"> 市内は 69.2%が徒歩、市外は 57.1%が自動車、県外は 66.7%がバスと、居住地により利用している主な交通手段が分かれている
どこから来たか×来訪目的	<ul style="list-style-type: none"> 市内は、空き地の飲食・物販や空き地の滞在・滞留空間等、実証実験のコンテンツを目的に来訪している人が合計 30.7%と、国際カーニバルを目的に来ている人(23.1%)よりも多い
どこから来たか×滞在時間	<ul style="list-style-type: none"> 遠くからの来訪者ほど、長く滞在する傾向がある
どこから来たか×回った場所	<ul style="list-style-type: none"> 市内、市外ともに周辺店舗を回った割合が 15.4%・28.6%と最も高い
誰と来たか×滞在時間	<ul style="list-style-type: none"> 家族(未就学)は、3時間以内の比較的短い滞在が 90%以上であったのに対し、家族(小学生以上)は、3時間以内と 6時間超えがそれぞれ 50%と滞在時間が長い 友達・パートナー、一人での来訪者は、滞在時間が分散
誰と来たか×交通手段	<ul style="list-style-type: none"> 家族(未就学)と友達・パートナーは、自動車での来訪が概ね 45%と最も多い 一方、家族(小学生以上)と一人は徒歩での来訪が概ね 45%~50%と最も多い。 一人は、バスでの来訪が自動車での来訪よりも概ね 10%多い。
誰と来たか×来訪目的	<ul style="list-style-type: none"> 誰と来たかに関わらず、概ね 30~40%が国際カーニバルを目的に来訪。 家族(未就学)と一人は、概ね 35%(国際カーニバルと同程度)が空き地の飲食・物販や滞在・滞留空間、スタンプラリー等の本実証実験を目的に来訪
交通手段×滞在時間	<ul style="list-style-type: none"> 長時間滞在(6時間以内または6時間超え)している割合は、バスでの来訪者が 40%と最も多く、自動車が 23.5%、徒歩が 10%と続く
交通手段×回った場所	<ul style="list-style-type: none"> 自動車・バス・徒歩の3つの交通手段では、どれも周辺店舗を回った割合が概ね 15~30%と最も高い

ii) 来街者アンケート調査結果の考察と空地活用にに向けた課題

来街者アンケートの結果を踏まえた成果・考察と、空地の活用にに向けた今後の課題を以下に示す。

実証実験 実施の方向性	実証実験の成果と考察
A: 回遊性向上の 等の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答者の 90%以上が回遊したと答えており、回遊性向上に資する取組となった。 ・ 特に居住地や交通手段等の関わらず、<u>周辺店舗を回ったとの回答が多かったことから、周辺店舗との連携やアクセス性等が重要な要素と考えられる。</u>
B: 空き地の効果的・自発的な 活用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>本実証実験のコンテンツを目的とした来訪者の合計が沖縄国際カーニバルを目的とした人と概ね同数（20 件程度）であり、目的的な来訪地になりえた。</u> ・ 70%以上の方が「とても満足」「やや満足」と答えており、また「<u>このような取組が広がるといい</u>」との意見があったことから、<u>効果的な活用となったこと</u>が伺える。 ・ <u>70%以上が空き地を使った今後の取組への興味を示している</u>ことから、今後の自発的な活用にに向けた取組が期待される。 ・ 一方、連絡先を記載した人がアンケート回答者の 1 割にも満たなかったことから、<u>より自発的な活用を促す仕組みづくりの推進が必要</u>となる。
C: 地域との連携 強化・共同運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自ら関わりたい方の連絡先を得ることができた（4 件）</u>ことから、<u>今後、連携の可能性を示している。</u>
D: 賑わいの効果 （回遊性・売上 等）把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人や家族連れの来訪者が多いことから、<u>一人や子ども連れでも滞在可能な空間・仕組みづくりが今後の賑わい創出に有効</u>であると考えられる。 ・ 居住地が市外・県外と遠くなるほど長く滞在する傾向がみられ、またバスを利用している来訪者も長く滞在する傾向がみられたことから、<u>今後交通結節点の整備により、より長く滞在する来訪者を取り込めることが考えられる。</u> ・ 「<u>もっとアピールした方がいい</u>」「<u>開催頻度を増やしてほしい</u>」といった、<u>更なる賑わいづくりに向けた課題も確認</u>できた。

■空地活用にに向けた課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証実験全体としての取組の成果や肯定的な意見を多く得られているため、今後も空地を活用した取組やPRの継続 ・ 回遊性向上に向けての周辺の飲食店との連携や、市民等の自発的な活用を促す仕組み・体制づくり
--

(c) 運営協力者・出店者アンケートによる効果検証

(i) 調査概要

調査目的	実施の方向性に示した「A：空地や既存店舗等で複数の拠点を展開し、まちの回遊性向上等を促進」「B：地元商店会や住民・学生等に対して、活用可能な資源として空地を提供することで、空地の効果的・自発的な活用を促進」「C：地元商店会や住民・学生等との連携の強化、地域と共同による運営」「D：賑わいの効果（回遊性・周辺店舗の売上等）を把握」の効果を検証する。	
調査日時	令和7年11月22日（土）・23日（日）の各日の実験終了前	
調査対象	運営協力者（合同会社 signals） 出店者	
調査項目	Q1	ご自身について
	Q2	今回関わった場所・出店した場所（あてはまるものに○）
	Q3	当日の様子で、よかったものを教えてください（可能な限りいくつでも）
	Q4	お客様の声や反応で印象的だったものを教えてください（可能な限りいくつでも）
	Q5	今回の取組のなかで、改善点や課題と感じたものを教えてください※自由回答
	Q6	売り上げについて
	Q7	空き地を使った取組の、年間の実施希望回数を教えてください。
	Q8	空き地を活用する際に、あった方がいい設備があれば教えてください。
	Q9	空き地を使った取組を、今後より発展させるためのアイデアがあれば、教えてください。
	Q10	空き地を使った取組を今後も実施した場合の参加意向を教えてください。
	Q11	自らが企画・準備・屋台等を出店したいという方のご連絡先
	Q12	その他、ご意見やご感想があれば教えてください
備考	11月22日（土）は沖縄国際カーニバル、4丁目ミュージックマルシェと同時開催	

サンプル数	8
-------	---

(ii) 運営協力者・出店者アンケート結果の概要と考察

i) 運営協力者・出店者アンケート調査結果概要（全サンプル：計8）

項目	概要
単純集計	
基礎項目	・運営協力者 1、飲食 1、物販 3、体験 3
関わった場所・出店した場所	・運営協力者 1、出店 7
よかったもの	・設備、ブース・コンテンツに対する意見がそれぞれ 4 件と最も多く、次いで空地利用、運営に対する意見も 1 件みられた
お客さんの声で印象的だったもの	・コザらしい取組であること、日かげや広さという空間に対する意見等、市の取組・運営に対する評価もみられた
改善点や課題	・駐車場やのぼり、照明等、施設・設備に対する意見が 4 件と最も多く、実施の時間帯等の運営に対する意見が 2 件、情報発信・PR に対する意見が 2 件と続く
売り上げ	・いつものイベント通りだったが 2 件、いつものイベントより悪かったが 1 件
空き地を使った取組の実施頻度	・年 1 回から月 1 回の実施を望む意見がみられた
あった方がいい設備	・休憩や滞留スペース、照明に対する意見が 4 件と最も多く、次いで日よけが 3 件、電源、トイレ、緑・芝生・植物等が 2 件と続く
この取組を発展させるアイデア	・空き地を使用することのハードルを下げる ・無人販売 等
今後の参加意向	・屋台等の出店はしたいが 4 件、自らが企画・準備したいが 3 件と、積極的な関与を求める意見が多くみられた
自らが企画・準備・出店したい方の連絡先	・1 名
その他、意見や感想	・もっと PR して、継続していけば売上も上がると思う 等

ii) 運営協力者・出店者アンケート調査結果の考察と空地活用に向けた課題

運営協力者・出店者アンケートの結果を踏まえた成果・考察と、空地の活用に向けた今後の課題を以下に示す。

実証実験 実施の方向性	実証実験の成果と考察
A：回遊性向上の等の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場やのぼり等、<u>来訪者の増加や回遊を促す設備・備品等の課題がみられた。</u>
B：空き地の効果的・自発的な活用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブースやコンテンツに対する肯定的な意見や、空き地利用そのものが良かったとの意見、日かげや広さといった空間に対する<u>肯定的な意見が得られたことから、空き地を効果的に活用できた</u>と考えられる。 ・ 今後も出店したい、自らが企画・準備したいという、<u>積極的な関与を求める意見が多くみられ、また今後も空き地を使った取組の実施を望む意見がみられた。</u> ・ <u>空き地利用のハードルを下げる</u>ことが重要との意見がみられた。
C：地域との連携強化・共同運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営を地元の企業と協力できたことで、<u>出店者等とのつながりを広げることができた。</u>
D：賑わいの効果（回遊性・売上等）把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>PR や情報発信等、更なる集客や賑わい創出に向けての課題がみられた。</u> ・ 売り上げは、いつものイベント通りだった、もしくはいつもより悪かったとの意見であったことから、<u>参加店舗への売上による貢献には課題が残る。ただし、今後継続していくことで売上も上がるとの意見も得られた。</u>

■空地活用に向けた課題

- ・ 実証実験全体としての取組の成果や肯定的な意見を多く得られているため、今後も空地を活用した取組やPRの継続
- ・ 回遊性向上に向けての周辺の飲食店との連携や、市民等の自発的な活用を促す仕組み・体制づくり

2-2-3 残地を活用した広場の検討

(1) 背景・目的

(a) 背景

国道 330 号拡幅により建物の除却が進行している交通結節点における「残地」※を活用した広場の検討にあたっては、時間軸を踏まえる必要があり、大きく 3 つの段階（フェーズ）が想定される。道路拡幅による用地買収が部分的に進むフェーズ 1、道路拡幅による用地買収が概ね完了したフェーズ 2、交通結節点の事業による用地買収が部分的に進むフェーズ 3。

現在、胡屋北交差点の隅切り造成工事、道路拡幅による建物除却等が行われており、これらがフェーズ 1 で活用可能な空地として想定される。

フェーズ 1・2 では空地(民地)が発現するため、地権者への配慮や空地全体での一体的な活用が必要となる。

※一般的に道路拡幅により生じる“残地”とは、道路用地を除く空地=空地（民地）を指し、建物の除却により生じた空地全体を指すわけではない。したがって、「残地」を活用した広場」という表現は、「空地（民地）」を活用した検討」と解釈される恐れがある。ここでの検討対象は「建物の除却により生じた空地全体」であるため、以降では、「空地」を活用した広場」とする。空地・残地等が示す詳細位置は下記の概念図を参照。

<空地発現のフェーズ>

	空間特性	概念図
フェーズ 1	<ul style="list-style-type: none"> 建物に囲われた限定的な空間として空地（道路用地）と空地（民地）が発現 	
フェーズ 2	<ul style="list-style-type: none"> 空地（道路用地）と空地（民地）が国道沿いに連続 建物の裏側が連続的に国道に面する 	
フェーズ 3	<ul style="list-style-type: none"> 国道と商店街側がつながり、商店街との空間的連携が可能 	

全面整備・活用